

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成19年6月

大島商船高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	4
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	4 7

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

大島商船高等専門学校

(2) 所在地

山口県大島郡周防大島町大字小松 1091-1

(3) 学科等構成

○ 準学士課程

商船学科, 電子機械工学科, 情報工学科

○ 専攻科課程

海洋交通システム学専攻

電子・情報システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数 (平成 19 年 5 月 1 日現在)

① 学生数

準学士課程

学年	1	2	3	4	5	差生	合計
商船学科	46	38	37	38	40	32	231
電子機械工学科	41	44	42	43	41		211
情報工学科	40	50	37	35	42		204
計	127	132	116	116	123	32	670

専攻科課程

学年	1	2	合計
海洋交通システム学専攻	2	6	8
電子・情報システム工学専攻	7	9	16
計	9	15	24

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般科目	6	6	2	0	0	14
商船学科	7	5	1	6	0	19
電子機械工学科	5	4	1	1	0	11
情報工学科	4	3	2	1	1	11
計	22	18	6	8	1	55

2 特徴

・ 沿革

本校は、明治 30 年 10 月 1 日、山口県大島郡立大島海員学校として創立され、明治 34 年に山口県立となり、その後の時代の進展とともに、昭和 14 年 8 月に国立大島商船学校、昭和 26 年 4 月に国立大島商船高等学校と改称、昭和 42 年 6 月 1 日、法律第 18 号「国立学校設置法の一部改正」により、大島商船高等専門学校となった。平成 19 年、学校創立 110 周年、高等専門学校として 40 周年を迎えるに至る。

高等専門学校発足時 (昭和 42 年) には、航海学科及び機関学科 (2 学科 1 学年 2 クラス, 1 クラス定員 40 名, 1 学年定員

80 名) でスタート、翌年 (昭和 43 年) 機関学科を 1 学年 2 クラス (1 学年 3 クラス, 1 クラス定員 40 名, 1 学年定員 120 名) となる。メカトロニクス分野の発展により昭和 60 年に機関学科の 1 クラスを電子機械工学科に改組し、航海学科、機関学科、電子機械工学科 (3 学科 1 学年 3 クラス, 1 学年定員 120 名) となる。さらに船員制度近代化と合理化、情報技術の発展に伴い昭和 63 年に航海学科と機関学科を統合して商船学科とし、新たに情報工学科を設立して、商船学科、電子機械工学科、情報工学科 (3 学科 1 学年 3 クラス, 1 学年定員 120 名) に改組した。平成 16 年 4 月独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人へ移行し、現在に至る。さらに本学における更なる高度な教育の充実を目指して平成 17 年度には商船学科を母体とした海洋交通システム学専攻及び電子機械工学科と情報工学科を母体とした電子・情報システム工学専攻の 2 専攻で構成される専攻科が充足し、平成 19 年 3 月には電子・情報システム工学専攻の第一期生全員が学位 (学士) を取得して課程を修了した。

・ 準学士課程教育の特徴

準学士課程 5 年間の教育課程において、低学年では「豊かな教養と広い視野を身に付けるため」の初段階として一般科目を低学年に多く配置、学年が上がるに従って各学科に必要な専門科目を徐々に増やす「深く専門の学芸を教授する」カリキュラム構成にしている。また各学科とも 1 年生より実験実習を実施しており、その内容は専門科目のみならず現代社会において必須である情報教育も含まれ、「職業に必要な能力の育成」の観点に沿ったものとなっている。またインターンシップへの取り組みを重視し、平成 18 年度では多くの学生が参加している。

準学士課程では、課程を卒業する学生の約 20% が進学、80% が就職であり、就職企業先では大半が学科の教育課程に合致した企業であり、進学先では商船学、理工学分野の大学および専攻科であり準学士の教育課程が十分機能していることがわかる。

・ 専攻科課程教育の特徴

専攻科課程では、高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かで技術革新と社会情勢に対応できる高度な海運管理者・研究開発技術者を育成するために設置され、海洋交通システム学専攻 (海洋系) では、すでに乗船実習を修了した学生が、海上のみならず陸上の国際物流の管理業務を担うことができる管理技術者の育成を目指したカリキュラム構成としている。また電子・情報システム工学専攻 (工業系) では、メカトロニクス分野および情報分野における研究開発技術者の育成を目指したカリキュラム構成としている。またボランティア活動をカリキュラムに組み入れ、学生のボランティアに対する意識の向上を図っている。さらに座学とは別に校内での専攻科の行事や研究発表会等においては学生自身での企画運営を基本としており、学生には自ら行動することにより自身の社会人としての自覚を持たせる試みを行っている。平成 19 年 3 月には工業系第 1 期生の修了生を輩出し、修了生全員が学位 (学士) を取得していることから教育課程が十分機能していることがわかる。

Ⅱ 目的

「我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門性を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を育成する」ことを養成すべき人材像として、本校では以下に示す教育理念、目標を掲げている。

1. 教育理念

本科5年間（商船学科は5年6ヶ月）における一貫教育によって海洋に育まれる心豊かでたくましい海運技術者並びに創造性豊かな工業技術者の育成を目指す。さらに専攻科では高等専門学校の基礎の上に、更なる高度な専門知識と技術を教授し、技術革新と社会情勢に対応できる海運管理者及び工業技術者を育成することを目指す。

2. 教育目標

2. 1 本校の教育目標

準学士課程及び専攻科課程の学生に対して以下に示す教育目標を掲げ、教育を行っている。

- (1) 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
- (2) 協同の精神と責任感を培い、集中力・忍耐力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
- (3) 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

2. 2 準学士課程各科の教育目標

(1) 一般教育課程

一般教育課程では「広く社会的視野に立って物事を理解できる教養豊かな国際人となること、また専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識を修得すること」を教育目標としている。この教育目標を実践するため教養教育に関する目標は、「基礎科目における学力の底上げとその向上」「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の二つを掲げている。前者については、一般理数系科目を特に低学年を重視して配置するとともに、社会に出るための準備段階として、技術者としての倫理を身に着けるための社会系の科目も高学年で開講している。後者については、全学科とも特に英語に重点を置き、オールラウンドコミュニケーションを含んだ基礎から工業英語に至るまでの教育を行っている。さらに、近年のアジアの発展に着目し、高学年に第二外国語として「中国語」「ハンダ」も取り入れている。

(2) 専門教育課程

専門教育では、基礎知識の習得や実験・実習の重視に加え「創造性豊かで高度な幅広い、ものづくり基盤を支える技術者の養成」を目標としている。各学科とも創造力をつける訓練としての科目として、「創造演習」（商船学科・情報工学科）、「創造設計」（電子機械工学科）を取り入れている。また平成18年度からのカリキュラム改定により高学年に「自学自習」として、その教科の課題のみでなく、時間を有効利用するように自分で工夫して勉強する時間を設置している。本科の集大成として、5学年で行う「卒業研究」において、研究の進め方、論文の書き方及び発表方法など、技術者として社会に出るための準備が体系的に実施されている。

(2-1) 商船学科

商船学科は航海及び機関コースの両コースが設置されており学科の目標として「広い視野と実践的な能力をもつ海技士を育成すること」を掲げている。そのために、船舶の安全運行に必要な専門知識を習得し、実践の場として、練習船で海外や国内各地を訪問しながら、自然や人と触れあい、楽しく充実した航海実習が行われている。

(2-2) 電子機械工学科

電子機械工学科では、学科の目標である「電子電気と機械の2分野を中心とし、これに情報処理・計測制御を

含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施する」に沿い、電子・機械分野だけでなく、情報系や制御系の講義科目と実験実習が積極的に開講されている。

(2-3) 情報工学科

情報工学科では、コンピュータや情報処理に関心を持っている者に情報処理と情報通信の原理と応用について系統的に学べる環境を提供している。学科の目標では「豊富な IT 技術をもとにした視野の広い応用能力の養成、グループリーダとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成、柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成」を掲げ、高度情報通信技術社会に対応できるエンジニアを育成するための対応が取られている。

以上のように、本校の準学士課程3学科は、学科ごとにそれぞれの特色を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標を掲げ、教育を行っている。

2. 3 専攻科の教育目標（専攻別、共通を含む。）

専攻科では本校教育目標を基礎として以下の教育目標を掲げ、優れた専門性と豊かな人間性を有する海運管理者と工業技術者の育成を目指している。

(1) 海洋交通システム学専攻

- 海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成

(2) 電子・情報システム工学専攻

- 電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成

(3) 一般教養課程および専門共通科目

- IT 教育により、高度なコンピュータ援用能力を持つ技術者の育成
- 国際化教育により、語学力や文化的教養を持つ技術者の育成
- 福祉や環境に常に関心を持つ技術者の育成

以上のように、本校の専攻科課程2専攻は、専攻ごとにそれぞれの特色を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標を掲げ、教育を行っている。

2. 4 卒業・修了時に達成される基本的な成果

本校の教育課程は、準学士課程および専攻科課程の教育目標に沿って系統的に配置されており、準学士課程入学より、5年生を卒業するまでの5年間（商船学科は5年6ヶ月）の学修と専攻科2年間の学修によって以下の基本的な成果を身につけることができる。

(1) 準学士課程

一般教育課程では、広く社会的視野に立って物事を理解できる能力、コミュニケーション能力、専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識、専門教育課程では一般教育課程を基礎として、安全に関する意識（商船学科）、実験・実習の重視及びものづくり基盤を支える創造性、プレゼンテーション能力、IT を活用する能力（電子機械工学科、情報工学科）などを身につけることができる。

(2) 専攻科課程

準学士課程を基礎として、専門科目の履修より発展的な専門知識・技術を身につけることができる。特別研究、特別実験および演習の履修や研究成果の校外での発表により創造的研究開発能力を身につけることができる。またボランティア体験を通して地域への社会貢献や活動の意義を体得できる。

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校が位置する周防大島は、周囲を瀬戸内海に囲まれ、島内全人口約23,000人のうち、65歳以上の老人は43%を占め、全国平均の17%に比べてはるかに高い。しかし、多くの高齢者が島の沿岸等で漁業を営んだり、山の斜面で特産物の大島みかんを栽培したりするなど、元気に働いており、生涯現役の島といわれている。また、気候も温暖で、1日のうちで4時間以上太陽の照る日が2000年を例にとると233日あり、県庁所在地の山口市に比べて、32日も多い。このような立地条件の中で本校は商船高専として、商船学、工学、そして一般科目といった教育研究内容が大きく違う多彩な人材と商船高専独自の研究施設が揃っているという点が本校の特色でもある。更に、このような人材と施設を有機的に結びつけるための工夫がなされている。

上記のような地域の特性と学校の特色を鑑み、県東部唯一の工業系学科を持つ高等教育機関として、教員は教育内容を技術の進展と社会の要請に対応させるために研究活動を行うことを基本に、以下のことを研究活動の目的としている。

大島商船高等専門学校の教育・研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を広く提供し、地域社会との連携を図り、もって本校の充実、発展に資することを目的とする。

これらは、本校が地域社会との連携を図るために設置した地域協力委員会の目的として掲げてある（資料A-Ⅲ-1-1）。この目的は、独立行政法人国立高等専門学校機構法第三条「機構の目的」及び第十二条「業務の範囲等」に一致するものである（資料A-Ⅲ-1-2）。

上記の目的を達成するために、以下の(1)~(3)を目標として掲げている。これらは地域協力委員会の基に設置した地域協力センターの具体的業務として公表されている（資料A-Ⅲ-1-1）。

(1) 科学技術相談

地域の特性と周辺環境を意識した特色ある研究を推進し、科学技術相談を行う。

(2) 生涯学習相談

練習船などの商船高専独自の施設と人材を活かした研究を行い、公開講座や出前授業を通して、地域の生涯学習相談を行う。

(3) その他

研究活動を通して教育の質向上に努める。

(機構の目的)

第三条

独立行政法人国立高等専門学校機構は、別表の上欄に掲げる高等専門学校を設置すること等により、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。

(業務の範囲等)

第十二条

- 三 機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 四 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構法 抜粋)

大島商船高等専門学校地域協力委員会規則 制定 平成元年10月1日

(目的)

第1条 大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を広く提供し、地域社会との連携を図り、もって本校の充実、発展に資することを目的として大島商船高等専門学校地域協力委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(地域協力センター)

第2条 前条の目的を達成するため、地域協力センターを設置し、次の業務を行う。

- (1) 科学技術相談
- (2) 生涯学習相談
- (3) その他地域協力センターの目的を達成するために必要な業務

2 地域協力センター長は、校長が任命する。

(審議事項)

第3条 委員会は、前条の業務を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 地域の企業、団体、機関その他からの技術相談、技術指導、研究協力並びに生涯学習に役立つ企画協力等（以下「地域からの要請等」という。）に関する事。

- (2) 地域協力の方策の立案に関する事。
- (3) 公開講座及び出前授業の企画及び立案に関する事。
- (4) その他必要な事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科主任及び一般科目主任
- (3) 地域協力センター長
- (4) 庶務課長、会計課長及び学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(地域からの要請等の受入れ決定)

第6条 地域からの要請等の受け入れは、委員会の協議に基づき、校長が決定する。

ただし、委員長が必要と認めるときは、関係者の意見を聴くものとする。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求めてその意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

本校は、地域の特性と周辺環境を意識した特色ある研究を推進し科学技術相談を行う、練習船などの商船高専独自の施設と人材を活かした研究を行い、公開講座や出前授業を通して地域の生涯学習相談を行う、研究活動を通して教育の質向上に努めるという三つを研究活動の目的としている。この目的達成のため、地域協力センター、練習船運航委員会、校長室などの研究支援体制がある。これらについて詳しく説明する。

本校では、組織的に研究活動を推進するため、また、地域社会との連携を深めるため、平成元年に地域協力委員会を立ち上げた(資料A-Ⅲ-1-1)。更に、平成16年にはこの委員会のもと地域協力センターを設置し、「生涯学習相談」と「科学技術相談」の二つを柱に活動を行っている。この地域協力センターの事務組織による支援体制は庶務課が担当している(資料A-1-①-1, 資料A-1-①-2)。

地域協力センターにおける「科学技術相談」は、研究分野を商船、機械、電気など八つの分野に分け全教員を対応可能にしている(資料A-1-①-3)。また、地域協力センターは、産業界及び官庁との連携と相互の情報交換を目的に、財団法人やまぐち産業振興財団主催の地域別産学公技術交流会への参加を続けている(資料A-1-①-4)。この交流会では、県内にある大学高専の研究者が講演やパネル発表を行い、共同研究への展開を図っている。また、平成18年度からは徳山高専主催の産学交流会へも参加し、研究活動を広く公表している(資料A-1-①-5)。更に、企業訪問による技術相談のための訪問調査や地域協力センターでの技術相談を行っている(資料A-1-①-6)。

周囲を海に囲まれ、多くの高齢者が元気に暮らす地域にある唯一の高等教育機関として地域協力センターにおける「生涯学習相談」は地域連携の面で非常に大切な役割を担っている。この生涯学習相談は公開講座や出前授業を通して研究活動を基本に知識や技術を地域に還元している。この公開講座には、特に地域性を考え、一般科目所属の教員も多く参加し、工学や商船学だけではなく、幅広い内容を実施している(資料A-1-①-7)。また、公開講座の数は全国高専の中で最も多い部類に属し(資料A-1-①-8)、非常に活発に行われ、受講者からも好評を得ている。これら公開講座の案内や募集は、単にポスターを近隣の組織に配布するだけでなく、本校のホームページを通して案内し、電話・FAX・電子メールなど多様な申し込み方法にも対応している(資料A-1-①-9)。

商船高等専門学校独自の施設として地域協力・研究活動に欠かせない設備が練習船「大島丸」である。現在の大島丸は平成5年12月に建造され、沿岸区域では99人、近海区域では58名が同時に移動できる(資料A-1-①-10)。この大島丸には船長以下4名の教員と5名の技術職員が配属され、教育活動だけでなく、公開講座や体験学習への利用を通して地域協力に貢献している他、この船を研究施設として利用する研究航海が実施されている。この練習船の運営には練習船運航委員会(資料A-1-①-11)があたり、運航に対しては練習船運航委員会にてスケジュールを調整するなど、全校的に利用する体制が整っている。

多種多様な人材や施設がある商船高等専門学校にあつて校長のリーダーシップは欠かせない。本校

では校長室という名前で校長・副校長・事務部長の意見を集約し、それらを実現している。研究活動においても校長室の存在は非常に大きい。予算面では中期計画達成予算と称し、学校全体として重要な研究・設備に予算を割り当てている(資料A-1-①-12)。例えば平成18年には25件2,783万円の申請の中から校長室がヒアリングを行い、重要と思われる案件に予算的措置を行っている。校長室はこの様な予算面だけでなく様々な側面から研究を支援している。例えば、商船高専には、商船学・工学・更には一般科目というように研究分野の大きく違う研究・教育内容があるが、これらをお互いに理解し有機的に結びつけるために、平成17年度より「学科を超えた技術の相互理解を深めるための研修」(資料A-1-①-13)を実施している。このような多くの人材を結びつけるための研修を通して、平成18年には文部科学省が行っている現代的教育ニーズ取組支援プログラムに二件が採択されるなどの成果が出ている。更に、「科学研究費補助金に関する説明会ための研修会」(資料A-1-①-14)や「特許セミナー」(資料A-1-①-15)を毎年開くなどして外部資金獲得・特許取得を支援している。

(分析結果とその根拠理由)

地域からの科学技術相談の窓口として地域協力センターを設置し、山口県産学連携フォーラムへの参加、科学技術に関する近隣の企業への訪問調査などを実施し、技術交流を促進している。また、多くの公開講座や出前授業を企画し、これらをホームページ、ポスター、市町村広報などを通してPRし、多くの受講者を集める体制が整っている。

また、商船高専独自の研究施設である練習船大島丸を利用する練習船運航委員会が組織され、練習船を有効に活用する体制が整っている。更に、校長室がリーダーシップをとり研究活動を予算面だけでなく、学科を超えた技術の相互理解を深めるための研修や科学研究費獲得のための研修など、多くの面から支える体制ができあがっている。

これらのことから、研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備されている。

大島商船高等専門学校地域協力センター運営内規

平成18年2月7日校長裁定

大島商船高等専門学校地域協力センター（以下「センター」という。）の運営に関し、次のとおり定める。

第1 大島商船高等専門学校教員組織規則第10条3に基づく、地域協力センター長の職務は、次のとおりとする。

1. センターにセンター運営委員会を設置すること。
2. センター運営委員会を招集し、その議長となること。
3. 各学科及び一般科目主任（以下「学科等」という。）に対し、それぞれ2名（センター長所属の学科等は1名）の委員の選出を依頼すること。
4. 委員の中から副センター長を任命すること。
5. 委員以外の者をセンター運営委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

第2 センター長、副センター長、委員の任期等は次のとおりとする。

1. センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 副センター長、委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
3. センター長、副センター長、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
4. センター長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

第3 センター運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

1. センターの運営に関すること。
2. 産学公の連携推進に関すること。
3. その他必要な事項

第4 センター運営委員会に関する事務は、庶務課において処理する。

第5 この内規に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター運営委員会において定める。

附則

1. この内規は、平成18年2月7日から施行する。

（出典 大島商船高等専門学校規則集）



大島商船高等専門学校
OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY

Japanese | English

● お問い合わせ ● 学内ネットワーク

HOME
学科・専攻科 紹介
キャンパスライフ
入試案内
書類ダウンロード

学校紹介 | 就職・進学情報 | 教育研究施設 | 地域との連携・交流 | 国際交流 |

地域との連携・交流

- ▶ 地域との連携・交流
- ▶ 公開講座
- ▶ 出前授業
- ▶ 国際交流

中学生・高校生の皆様へ

在校生の皆様へ

保護者の皆様へ

卒業生の皆様へ

企業・地域の皆様へ

働きたい皆様へ

地域との連携・交流

1. こんな方法でお手伝い

大島商船高専は、平成16年4月から独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校となり、新たな一歩を踏み出しました。本校は、商船学科、電子機械工学科及び情報工学科の3学科からなる高等教育機関です。本校では、教育と研究の機能及び設備を開放し、地域の方々のお手伝いをします。そのために校内には次の委員会等を設置しています。

■地域協力委員会

企業等からの各種相談に応じたり、研究協力や生涯学習の推進を図るため「地域協力委員会」を置いています。この「地域協力委員会」の中に、地域協力センターを設けています。



■地域協力センター

【科学技術相談】
商船学、機械工学、電気・電子工学、制御工学、情報工学、計算機工学、自然科学（数学、物理、気象学、化学、体育等）等の分野について、受託研究、共同研究による研究開発、各種試験・分析等の受託、技術指導、情報提供及び各種相談等を担当しています。

【生涯学習相談】
地域の人々のニーズに合った学習機会の充実とその成果を活かすことのできる環境整備を積極的に支援していきます。

●相談窓口

ご相談、お問合せは、下記へご連絡ください。

大島商船高等専門学校
庶務課専門職員
TEL.0820(74)5457
FAX.0820(74)5552
ssenmon@oshima-k.ac.jp

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ「地域との連携・交流」)

- 10 -

電子機械工学科 教授 奥野 澄生

キャッチフレーズ

企業における約 32 年間の製品開発の実績がある。特に、最近の鉄道車両技術のうち、設計コンセプト作りから開発・設計に至る世界最先端の技術に関与。

専門分野

分野		内容
材料強度	構造解析	薄板構造物（鉄道車両/車体、台車、クレーン、化学プラント容器）の F E M 解析・構造体におけるスポット溶接部の強度解析
	疲労強度評価	構造体における各種溶接継手 ろう付アルミハニカム構造体・破壊力学による未溶着部の評価 接着，特殊継手（ボルト，ナット，リベット等）・鉄道車両のトンネル内圧力変動荷重に対する評価
	座屈強度	軸対称，非軸対称円筒殻・平板，ビード出し外板，補強板など
生産加工	生産技術生産工程 etc	鉄道車両の生産技術，製作の流れ（工程） 生産技術と製品の性能（特性，精度 他）
	溶接力学	溶接方法，形状と強度，欠陥，残留応力評価 他
数値解析	数値解析	・ F E M 解析・座屈近似解析法
	コンピュータ教育	FORTAN・パソコン
理論解析，構造規格		軸対称シェル理論 ASME 評価基準（Sect, III, VIII）
評価・実験技術		構造物の要素モデルによる強度評価技術（抵抗線ひずみ測定，モアレ法，光弾性法，要素モデル化技術） 各種疲労試験機を用いた強度評価技術 SEM による破面解析

専門分野関連製品化（製品化の方向など）

・高速新幹線電車「のぞみ」シリーズ 300, 500, 700 系車両；在来線電車：最近のアルミダブルスキン構造車両 & ステンレス車両・軸非対称円筒容器（例えば，筑波宇宙センター納め世界最大級スペースシャトル他軽量コンテナクレーン

学会・教育・社会活動など

所属学会 日本機械学会会員，日本材料学会会員

教育歴 大島商船高専 7 年勤務・久留米工業大学非常勤講師・山口大学大学院理工学研究科非常勤講師・自動車技術会/疲労信頼性部門委員会・日本材料学会/材料講習会講師など

（出典 大島商船高等専門学校研究者マップ）

技術シーズ発表内容

食品分野

- 「役に立つ天然色素-魅力的な紫色系-」(北部) 田上保博氏.....1
- 「タンパク質の加熱変性と凝集体形成について」(北部) 和田律子氏.....5
- 「嗜好好適品種「西都の雫」の育成と今後の取り組みについて」(北部) 羽崎正恭氏.....9
- 「高齢者にやさしい食品の開発」(北部) 有馬秀幸氏.....13
- 「アマダイの品質・鮮度保持技術」(北部) 嶋内潤氏.....17

水産分野

- 「水産資源にやさしい凍藏防凍技術」(北部) 梶川和武氏.....21
- 「漁食性魚類による環境汚染の現状」(北部) 一部改訂 野田幹雄氏.....23

情報・制御分野

- 「画像を対象にした理解システムの利用」(中部) 岡村健史郎氏.....25
- 「高精度汎用シミュレーション技術の展開」(中部) 一部改訂 内海隆行氏.....29
- 「非加法的情報理論の展開」(中部) 古市茂氏.....32
- 「セルフェューニング自動制御」(中部) 沖俊任氏.....33
- 「誘電力を用いた流れ制御」(中部) 小河原加久治氏.....37

健康・福祉・医療分野

- 「介護用どこでもシャワーユニットの開発・商品化」(西部) 有興公社様とびあ 梶山郁祐氏.....39
- 「看護基本技術を習得するための学習教材の検討」(西部) 山口県立大学 看護学部 田中愛子氏.....41
- 「高齢者ケアにおける技術開発」 山口県立大学 看護学部 田中マキ子氏.....43
- 「介護予防における下肢筋機能測定評価装置の開発」(西部) 山口県立大学 看護学部 廣竹昭彦氏.....47
- 「自己組織化マップを用いた自動健康診断システム」(西部) 宇部工業高等専門学校 機械工学科 内堀長彦氏.....50

経営・人間工学分野

- 「企業CRMの作成と編集」(西部) 伊藤孝夫氏.....53
- 「経営資源の有効活用とプロジェクトマネジメント」(西部) 大島直樹氏.....54
- 「航海者の操縦環境と航行行動について」(西部) 久保田崇氏.....56

環境・省エネ分野

- 「海上における世界的な環境問題に関する取り組みについて」(東部) 古藤泰美氏.....59
- 「水中からの金属イオンの分離回収方法の検討」(東部) 村上良子氏.....63
- 「シクロデキストリンポリマーによる工業排水からの化学原料の分離・回収への応用」(東部) 宇部工業高等専門学校 物質工学科 山崎博人氏.....65
- 「地価設定式メタン発酵槽を使ったバイオガスプラント」(東部) 廣川宏康氏.....69
- 「株式会社コアプロス 技術開発部 木質ペレットボイラー冷暖房システムと森林バイオマスの現状について」(東部) 山口県林業指導センター 研究部 井上善夫氏.....71

機械・メカトロニクス分野

- 「ビデオプロジェクター用の高圧水銀ランプを応用した精密加熱加工の提案」(東部) 大島商船高等専門学校 電子・機械工学科 一番ヶ瀬剛氏.....73
- 「多項式を用いるロボパス制御系/人間機械系の操作性改善」(東部) 山口県立大学 大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 藤井文武氏.....77
- 「燃焼技術に関する基礎研究」(東部) 徳山工業高等専門学校 機械電気工学科 池田光徳氏.....80
- 「メカトロニクス技術応用機器の開発事例」(中部) 宇部工業高等専門学校 制御情報工学科 菅合 穰氏.....84

土木分野

- 「河川乱流の構造の解明とその応用」(東部) 徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 渡辺勝利氏.....87

平成18年度 徳山高専 産学交流会

徳山高専等 シーズ発表会 徳山高専テクノ・アカデミア 共同研究成果報告会

第1部では、徳山高専の「機械制御」、「情報電子」、「建設」の分野等及び大島商船高専のシーズを発表することにより、企業ニーズとのマッチングを図ることを目的とした発表会を、また、第2部では、徳山高専テクノ・アカデミアが昨年度及び本年度採択したテクノ・アカデミア共同研究の研究成果を報告するための報告会を「徳山高専産学交流会」として開催いたします。

日時 平成19年2月19日(月) 13:00～
会場 ザ・グラマシー 周南市桜馬場通3-16 TEL:0834-32-5000

会場 ザ・グラマシー「ブルーオーシャンW」
第1部 徳山高専等 シーズ発表会(13:00～15:15)

- 「長方形切欠による二次元噴流の制御」 徳山高専 機械電気工学科 張間 貴史
二次元ノズルに付加した長方形切欠により、到達距離の延伸や乱れの抑制が可能な噴流の制御方法を紹介いたします。
- 「バスケットボール作戦システムの開発」 徳山高専 情報電子工学科 原田 徳彦
防御選手のパターンに応じた作戦を作成し、試合・練習時の指示や説明を支援する作戦盤ソフトを紹介いたします。
- 「Web ベース組み込みシステム開発環境の構築」 徳山高専 情報電子工学科 柳澤 秀明
現在開発中である Web ベース組み込みシステム開発環境を紹介いたします。
- 「雑音重畳画像に対する強調特性の改善」 大島商船高専 電子機械工学科 岡崎 秀俊
アンシャープマスキングによる雑音重畳画像の強調特性を改善する方法を紹介いたします。
- 「周南市内の歴史的遺産に関する研究」 徳山高専 土木建築工学科 太田(中川) 明子
周南市内における、歴史的遺産の現状の紹介と、今後の調査予定、歴史的遺産保存活用意義に関する発表をします。
- 「内海を航行する高齢者のためのソーラー遊漁船の開発」 大島商船高専 商船学科 三原 伊文
年金を主たる収入とする漁師の人達に、環境・人に優しいソーラー遊漁船を提供するため、その開発に取り組んだ内容を紹介いたします。

第2部 徳山高専テクノ・アカデミア 共同研究成果報告会(15:45～18:00)

- 「射出成形機用2相構造型スクリーンの強度解析ならびに高強度デザインの研究」
鋼鉄工業株 小崎 信也、徳山高専 機械電気工学科 小田 和広
- 「効果的な情報発信装置としてのLED発光システムの開発」
サマンサジャパン株 中元 正二、徳山高専 機械電気工学科 伊藤 尚
- 「超音波による粒状材料の締固めと強度に関する研究」
井森工業株 大内 光徳、徳山高専 土木建築工学科 上 俊二
- 「浮屋根式重油タンクのスロッシング抑制装置設計に関する研究」
勝井建設株 勝井 優、勝井 勇次、徳山高専 土木建築工学科 原 隆
- 「山口県東部地域を中心とした産学連携のあり方に関する意見交換会」

会場 ザ・グラマシー「ブルーオーシャンE」
第3部 交流会(18:10～19:10)

参加費 第1部及び第2部は無料
第3部は3,000円(第3部のみの参加も歓迎します。)
(産学交流会用としての駐車場は確保していませんので、公共交通機関等をご利用願います。)

問合せ 徳山高専 庶務課 Tel:(0834) 29-6399・6227
× 切 平成19年2月9日(金)
申込み 徳山高専 庶務課 FAX:0834-28-7605 又は E-mail:academia@tokuyama.ac.jp

主催/徳山工業高等専門学校、徳山高専テクノ・アカデミア

(出典 徳山工業高等専門学校産学交流ポスター)

産学官・科学技術相談事項表

↵

1. 相談年月日・区分

平成18年 3月 1日(水) 14:00～16:00 電話 来校

2. 企業名・住所

■■■■ 機械工業株式会社

■■■■ 番地

3. 企業担当者・電話番号等

■■■■ (営業開発部 主任技師)、■■■■ (車両部 主任技師)

■■■■ (車両部 技師)、■■■■ (品質保証部 技師)

4. 本校担当者

奥野澄生(電子機械工学科 教授)

5. 相談事項概要

(1) 鉄道車両(車体)用部品(ドアの扉)の強度信頼性評価について

● 繰返し荷重に対する信頼性評価

● 本校の疲労試験機を用いて疲労試験を実施

試験の方法、強度評価法、試験ジグの構造、試験機の扱いについて指導

↵

(2) 試験期間: 3月15日～3月24日(土日、休日は除く)

使用時間: 9:30～19:00

使用場所: 本館1階; 材料力学実験室(疲労試験機の管理責任者: 奥野澄生)

使用者: ■■■■ 機械工業の担当者(2～3名)が本校に来て、試験を実施する。

↵

(3) この技術相談は本校の産学官協力の一環として実施するものである。

また、奥野の研究テーマの一つである「鉄道車両構造体の強度的信頼性評価」

との関わりにおいても有意義なデータとなる。

↵

6. 今後の予定

(1) 上記の日程で試験を実施する。

(出典 産学官・科学技術相談事項表)

平成18年度公開講座一覧

整理	講座名	日時	会場	対象	募集人数	担当	申込期間
1	天体観測会 -満月に近い月と木星が並んで見えます-	5/12(金) 19:00~21:00 天候不良中止	視聴覚教室及び校舎屋上	小中学生 (保護者か先生が必ず)	10	辻 啓介 (天文同好会)	4/24(月) ~ 5/11(木)
2	幕末講座) 郷土の偉人 青木周弼 -歴史を多角的にみよう-	5/13(土) 13:30~15:00	視聴覚教室	市民一般 中高生	100	田口由香 森本文規氏	4/17(月) ~ 5/8(月)
3	ソーラーボールを作ろう!	7/15(土) 09:00~12:00 または	校内	小学生	30	三原伊文 藤谷 親	6/12(月) ~ 7/7(金)
4	クルーザーで行く朝鮮通信使の航海の足跡	7/16(日) 8:30~16:00	すばる棧橋集合	市民一般	10	古藤泰美	6/28(水) ~ 7/7(金)
5	針穴写真入門 -ピンホールカメラの製作から撮影 現像まで-	7/22(土) 09:00~17:00	視聴覚教室 校内周辺 暗室	市民一般 小中学生	10	新谷浩一	6/19(月) ~ 7/14(金)
6	ことばの世界 1 いろは歌と五十音図	7/22(土) 15:00~16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	中澤信幸	6/19(月) ~ 7/14(金)
7	映画で学ぶアメリカ文学 ~ 仮サブランカと「カーレット・レター」~	7/28(金) 18:00~20:00	本館会議室	いずれかの映画を見たことのある方	30	石田依子	6/26(月) ~ 7/21(金)
8	パソコンで 自分の家を設計してみよう -住宅の間取りや外観も-	7/29(土) 13:00~17:00	情報教育センター 第1演習室	市民一般 小中学生	15	北風裕教 宮元 章	7/1(土) ~ 7/21(金)
9	親子サバイバルキャンプ	7/29(土)30(日) 08:30~15:30	練習船大島丸 周防大島周辺	親子20組 以内	40	大島丸(安尾 船長ほか) 町教委	7/1(土) ~ 7/20(木)
10	デジカメ写真を加工しよう III -画像を使った 4コマ・ストーリーの作成-	8/5(土) 09:00~16:00	情報教育センター 第1演習室	市民一般 小中学生	20	浦上美佐子	7/3(月) ~ 7/28(金)
11	ヨット教室 :ヨットに乗ろう!!	8/5(土) 09:00~16:00	ヨットヤード 練習船大島丸	小学5年生 以上 市民一般	10	安尾英昭	7/3(月) ~ 7/20(木)
12	少年・少女サッカー教室	8/5(土) 09:30~15:00	本校グラウンド (雨天の場合は体育館)	小中学生 (傷害保険に加入して)	40	幸田三広 郡サッカー 協会指導者	7/3(月) ~ 7/28(金)
13	数学者 ~ 真理の探求者達 ~	8/5(土) 13:30~15:30	視聴覚教室	市民一般	50	中井洋史	7/3(月) ~ 7/21(金)
14	もの作り体験講座 -身近な材料で作る環境にやさしいエン ジン・ジャンピングロー製作!-	8/6(日) 9:00~15:30	電子実験室 (電子棟3F)	小中学生	12	川原秀夫 吉田年輝	7/3(月) ~ 7/28(金)
15	もの作り体験講座 -電池とモーターで動く-	8/18(金)~19(土) 09:30~15:30	機械工作実験室 (電子棟1F)	小学校高学 年・中学生	10	岡野内 悟	7/3(月) ~ 8/11(金)
16	初心者向け 設計製図とCAD	8/21(月) 23(水)25(金) 19:00~21:00	情報教育センター 第2演習室	中学生以上 市民一般	12	川原秀夫 清水聖治 岡野内 悟	7/1(土) ~ 7/31(月)
17	幕末講座) 幕長戦争 四境の役)大島口を巡る -海と陸から見る戦闘地-	9/2(土) 09:00~16:00	練習船大島丸 周防大島町各地	市民一般 小中高生	30	田口由香 大島丸(安尾船 長ほか)	8/1(火) ~ 8/21(月)
18	ことばの世界 2 平家物語 富士川合戦)を読む	10/14(土) 15:00~16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	吉田郁雄	9/4(月) ~ 10/6(金)
19	パソコン環境設定講座	11/23(木) 9:00~16:00	プログラミング演習室	市民一般	10	石原良晃	11/1(水) ~ 11/10(金)
20	《おもしろ雑学講座》第3弾 「大阪学」はどうだ??! ~吉本漫才から曽根崎心中まで~	11/18(土) 15:00~16:30	本館会議室	市民一般 大学生 高校生	30	石田依子	10/16(月) ~ 11/10(金)
21	TOEIC 対策基礎講座	11/8(水)、15(水) 18:00~20:00	本館会議室 情報教育センター	市民一般	15	吉留文男	10/2(月) ~ 10/26(木)
22	ことばの世界 3 古代日本人と外国語	12/9(土) 15:00~16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	中澤信幸	11/6(月) ~ 12/1(金)

(出典 平成18年度大島商船高等専門学校ホームページ)

平成17年度公開講座開講予定表

順位	高専	件数
1	石川高専	26
2	函館高専	23
3	大島商船高専	21
4	富山商船高専	18
5	長野高専	15
	全国 55 国立高専 472 件 / 平均 8.6 件	

15 件以上の公開講座開講予定高専を抜粋

(出典 高専機構からのメール資料 2005 年 9 月 13 日付け より抜粋)

★ 独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 OSHIMA National College of Maritime Technology



ソーラーボートを作ろう!

人と環境にやさしい太陽電池と牛乳パックで、
模型のソーラーボートを作って走らせよう



開催日時	平成18年7月15日(土) (午前の部) 9:00 ~ 12:00 人数: 15人 (午後の部) 13:00 ~ 16:00 人数: 15人 ★雨天の場合は中止します。
会場	大島商船高专キャンパス
対象	小学生
募集人数	30人
担当	三原伊文 藤谷 親
申込方法	6月12日～7月7日までに、次の必要事項を記入して、はがき、メールまたはFAXで申し込んでください。 ① 講座名(午前または午後の希望の別) ② 氏名(ふりがな) ③ 年齢(学校名と学年) ④ 男女の別 ⑤ 郵便番号と住所 ⑥ 電話番号
講習料	無料 太陽電池キット持ち帰り希望者は、実費 2,600 円をいただきます。

お問合せ・お申込は

大島商船高等専門学校
庶務課

〒742-2193
大島郡周防大島町小松 1091-1
電話:0820-74-5457
ファックス:0820-74-5552
メール:ssenmon@oshima-k.ac.jp
HP:http://www.oshima-k.ac.jp

(出典 平成18年度大島商船高等専門学校ホームページ)

●練習船「大島丸」
Training Ship
"OSHIMA-maru"

船型	Type	低船首楼型			
資格	Kind of Vessel	近海区域(非国際航海)、第4種船NK	M0相当		
主要寸法	Dimensions	全長 L 41.0m	幅 B 7.6m	深さ D 3.5m	
総トン数	Gross Tonnage	228トン	tons		
主機関	Main Engine	低速直接逆転	ディーゼル機関 (1300ps/370rpm)	1基	Diesel
最大速度	Maximum Speed	13.69ノット	knots		
航続距離	Cruising Distance	約 2,100km			
発電機	Generator	三相交流、自動式	(225KVA/AC 225V 3φ/60HZ 1,200rpm)		
バウスラスト	Bow Thruster	推力1.0t	1台		
定員	Capacity	<近海区域の場合>	Crew 乗組員9人	Others その他49人	Total 合計58人
		<沿海区域 3時間未満>	Crew 乗組員9人	Others その他90人	Total 合計99人



(出典 大島商船高等専門学校学校概要)

大島商船高等専門学校練習船運航委員会規則

制 定 昭和 56 年 7 月 15 日

(目的)

第 1 条 大島商船高等専門学校練習船（以下「練習船」という。）の円滑な運航と運用を計るため、練習船運航委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 練習船の運航計画に関する事。
- (2) 練習船の整備に関する事。
- (3) その他練習船に関する重要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 商船学科主任
- (3) 電子機械工学科及び情報工学科から選出された教官各 1 人
- (4) 船長及び機関長
- (5) 一等航海士及び一等機関士
- (6) 庶務課長、会計課長及び学生課長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を召集しその議長となる。

ただし、委員長に事故あるときは、委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第 5 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

(事務)

第 6 条 この委員会の事務は、学生課において処理する。

附 則

1 この規則は、昭和 56 年 7 月 15 日から施行する。

2 昭和 44 年 4 月 1 日練習船運航委員会に関する内規は、昭和 56 年 7 月 15 日限り廃止する。

附 則

この規則は、昭和 57 年 5 月 21 日から施行する。

附 則

この規則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 4 年 4 月 18 日から施行し、平成 4 年 4 月 1 日から適用する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

平成18年度中期計画実施要求一覧
18.7.5

ヒアリング日	所属	推薦 順位	氏 名	プロジェクト名称	要求額 (千円)	継続年度
7月12日	商船	1	朴 鐘徳	補機実験室の学生実験用装置の製作	1,244	18/19
7月12日	〃	2	清水聖治	e-ラーニングサイト構築と展開	1,089	17/18
7月18日	〃	3	川原秀夫	セラミックス粒子流動層を利用した熱交換器	679	17/18
7月14日	〃	4	北風裕教	RNNを用いた細胞内反応システムにおける ロバストネス瓦解部位予測	784	18
7月13日	〃	5	新谷浩一	国際海上コンテナの戦略的な運用計画に	715	18
7月14日	〃	6	*角田哲也 川原秀夫	エネルギー管理士取得強化プロジェクト	1,134	18
				商船学科小計	5,645	
7月12日	電子	1	増山新二	ペルチェ素子の動作特性および除熱効果	953	18/19
7月11日	〃	2	尾形公一郎	微粉末の流動化操作を用いた供給・輸送	458	17/18
7月11日	〃	3	松田充夫	顔認証システムの開発と実証試験	780	18/19
				電子機械工学科小計	2,191	
7月13日	情報	1	松井利幸	マルチメディア教育演習システム	1,095	17/18
7月12日	〃	2	橘 理恵	JAVAを用いたWebプログラミング技術の習	2,600	18/19
7月11日	〃	3	浦上美佐子	災害発生時にも対応可能な安心・安全ネッ — D-starの導入実験と評価 —	422	18
7月11日	〃	4	岡宅泰邦	数理計画実験教育システム	817	18/19
7月13日	〃	5	比嘉勝也	集積回路製作実習教育システム	3,110	18/19
				情報工学科小計	8,044	
7月18日	一般	1	上月陽一	塑性変形中の転位と不純物との相互作用	3,233	18
7月14日	〃	1	幸田三広	PWC(水上バイク)レスキューによる危機管	3,300	18~20
7月14日	〃	3	*宮奥正道 吉留文男	資格試験におけるリスニング力の向上に向 けての対策	50	17/18
7月12日	〃	4	田口由香	明治維新と大島周辺に関する研究	230	17/18
7月18日	〃	5	石田依子	フランス語圏カリブ文学におけるハイブリ	500	18
7月12日	〃	6	吉留文男	志願者のニーズ分析と広報活動の改善につ	257	18
				一般科目小計	7,570	
7月14日	専攻科	1	岩崎寛希	船舶衝突事故におけるレーダ航跡を用いた	650	18/19
7月18日	〃	2	川原秀夫	付着性粉黛体の精密ハンドリング機構の解	522	18/19
				専攻科小計	1,172	
7月14日	その他	1	国際交流 (櫛田直規)	国際連携推進経費	1,500	17/18
				その他小計	1,500	
7月14日	学生課	1	学寮 (伊藤正一)	学生寮パソコン室の備品更新	956	18/19
7月14日	〃	2	学寮 (伊藤正一)	学生寮厨房設備の整備	761	18~20
				学生課小計	1,717	
			計 25件	18年度予算配当 16,880千円	27,839	

(出典 会計課中期計画予算資料抜粋)

資料A-1-①-13

第2回 学科を超えた技術の相互理解を深めるための研修実施要領

- 1 目的
この研修は、本校に在職する教職員を対象にして、学科を超えてその技術の相互理解を深めることで本校の将来に向けた協力体制の向上を目的とする。
- 2 実施期間
平成18年9月11日(月)・12日(火)
- 3 会場
会議室
視聴覚室(11日午後)
情報教育センター第一演習室(12日午後<清水>)
- 4 参加対象者
平成18年8月1日現在、本校に籍を置く教職員(非常勤を含む)のうち教員10名程度、事務職員10名程度、技術職員10名程度の計30名以内程度
- 5 日程
日程表は下記のとおり

平成18年9月11日(月)

9:30	9:50	10:50	11:00	12:00
開会 校長 挨拶	【講義等】 コンピュータ支援診断 ～コンピュータと医師の新しい関係～ 情報工学科 助手 橋 理 恵	休憩	【講義等】 コンピュータ支援診断 ～コンピュータと医師の新しい関係～ 情報工学科 助手 橋 理 恵	昼食

13:00	14:00	14:10	15:10
【講義等】 幕末長州藩の攘夷構想 —史料分析を中心に— 一般科目 講師 田 口 由 香	休憩	【講義等】 幕末長州藩の攘夷構想 —史料分析を中心に— 一般科目 講師 田 口 由 香	

平成18年9月12日(火)

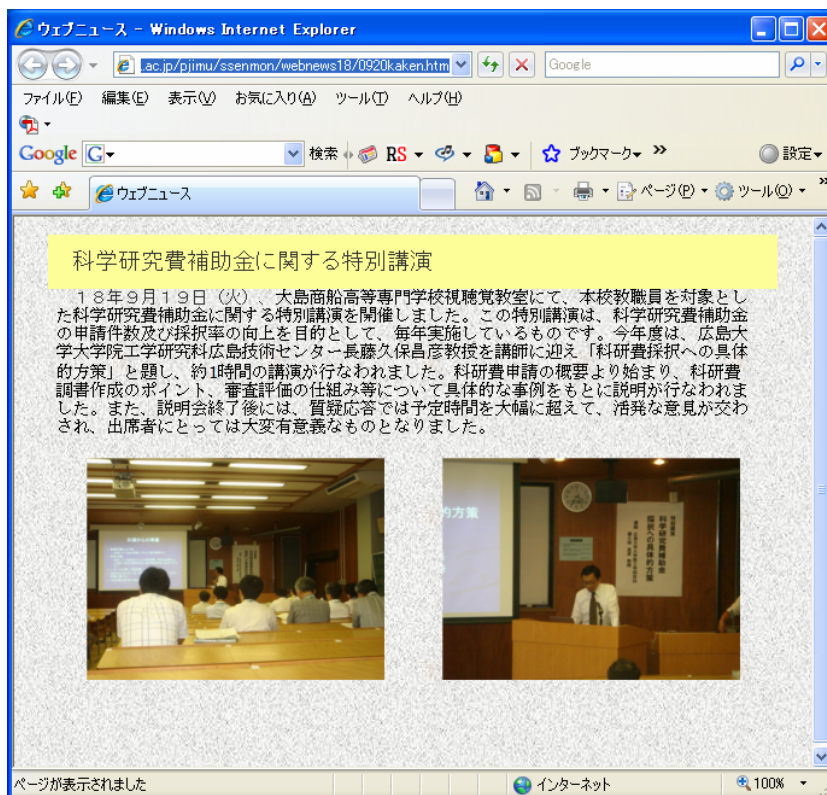
9:50	10:50	11:00	12:00
【講義等】 粉体ハートリング技術の 紹介と今後の展開 電子機械工学科 講師 尾 形 公 一 郎	休憩	【講義&実験室見学】 粉体ハートリング技術の 紹介と今後の展開 電子機械工学科 講師 尾 形 公 一 郎	昼食

13:00	14:20	14:30	15:30	15:40	16:40
【講義等】 現代GPIに選定された「実学重視のe-ラー ニング構築と展開」とWebClassについて 商船学科 助教授 清 水 聖 治	休憩	【講義等】 沸騰熱伝達に 関する報告 商船学科 助手 朴 鍾 徳	休憩	参加者及び講師 との意見交換	

【注】講義又は実習の予定講師及び講目

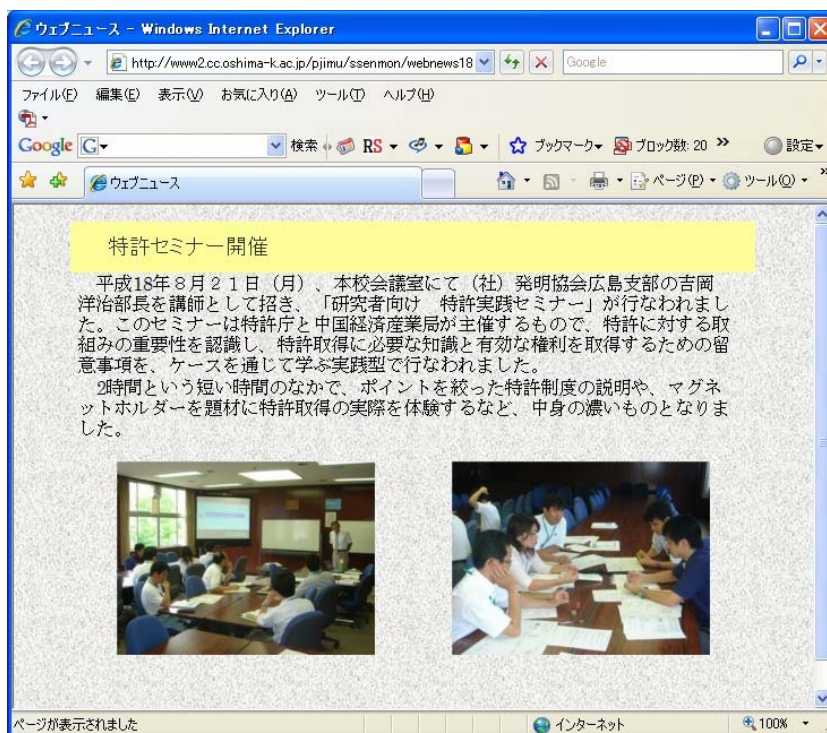
(出典 学科を越えた技術の相互理解を深めるための研修実施要領)

資料A-1-①-14



(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

資料A-1-①-15



(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

「研究活動の状況」に係る目的で述べた三つの目標に対してそれぞれ順に成果を述べる。

(1) 地域の特性と周辺環境を意識した特色ある研究を推進し、科学技術相談を行う。

本校は瀬戸内海に浮かぶ周防大島に位置し、日照時間の長い温和な気候と美しい環境が特徴の地域にある。このような地域の特性を考え、環境に優しい技術を目指した研究が多く行われている。これらの中で、企業・大学などの研究機関との共同研究を通して外部資金を導入しているものを資料A-1-②-1にあげる。

「太陽光エネルギーで航行するソーラー遊漁船」に関する研究は、島内6漁協の全組合員1,658人のうち、55.4%を占めている65歳以上の漁師に「燃料代は要らない、排気ガスがなく環境に優しい振動・騒音がほとんどなく、人にも優しい」漁船を提供するものとして非常に注目されている(資料A-1-②-3)。その他にも、日照時間の長い温和な気候を利用した太陽光発電に関する研究が積極的に行われている。「太陽光発電の発電効率向上」は本校の太陽光発電施設を利用し、夏期の高温における発電効率低下を防ぐ研究としてビル建設施工会社との共同研究が進んでいる(資料A-1-②-4)。「船用ディーゼルエンジンの燃費改善に関する研究」、「船用ディーゼルエンジンの大気保全に関する研究」、「実船を利用した船用ディーゼルエンジンの燃費特性に関する研究」は、船舶用ディーゼルエンジンの燃費向上によるCO₂やNO_xの排出を防ぐ技術として多くの船用エンジン関連企業との共同研究が進んでいる。これらの研究はいずれも現有施設である練習船大島丸を使って実機テストを行っており、共同研究先から高く評価されている。また、「バイオマスからの高付加価値製品の実用化開発」は、産業廃棄物であるおからや未利用の糖資源から、瀬戸内海で見いだされた新規微生物ラビリンチュラを用いて、栄養剤や飼料などの高付加価値物質を作る研究で、実用化間近の研究である。

練習船大島丸は商船高専独自の施設であり、これが船用ディーゼルエンジンの燃費や大気保全に関する研究に用いられていることは既に述べたが、この施設は自家発電機能、厨房、宿泊設備などのライフラインを独自に備えているという特徴がある。そのため平成7年の兵庫県南部地震発生時には、陸上交通網が遮断された中、救援物資の運搬などの復旧活動にあたった。この練習船を利用した災害対策のための研究が行われている(資料A-1-②-2)。「海上無線LANを利用した小型船舶対象の安心ネットワーク構築」に関する研究(資料A-1-②-5)は、災害に強い船を基地局にし、周辺の小型船舶を対象としたLAN構築を提供するもので、「2005年総合防災訓練in周防大島」に組み入れられるなど、地域の防災対策の一環として活躍している。特に、周防大島周辺の海域は、「伊予灘及び安芸灘」として地震予知連絡会が大きな地震発生の可能性の高さ等を考慮して全国8カ所の特定観測地域の一つに指定している災害発生が予想される地域でもあり、災害対策は急務である。また、本校周辺の地域は高齢者が多く、災害時には大きな被害が発生することが予想される。このような状況に対して、「無線インターネット装置とミニFM送信機による災害時の情報伝達システム」(資料A-1-②-6)は、ミニFMトランスミッタを用いて、安否情報や救援物資情報などの複数の情報をデジタル化して、避難所等に設置されているラジオに同時配信できる技術として特許申請中である。

この様に美しい環境と高齢化が進む地域に必要な研究とは何かを考え、これに沿った成果が得ら

れている。また、資料A-1-②-7にあげた研究は、ネットワークを担当する情報工学科教員、基地局設備を提供・管理する練習船担当教員、そして無線を担当する一般科目教員による共同研究であり、多種多彩な人材と施設を融合して初めて出来る研究成果の典型でもある。更に、これらの研究は資料A-1-①-12に述べた校長室がヒアリングを行った中期計画達成予算を利用しており、校長室主導の予算が有効に使われていることを示している。

- (2) 練習船などの商船高専独自の施設と人材を活かした研究を行い、公開講座や出前授業を通して、地域の生涯学習相談を行う。

本校は県東部唯一の工業系高等教育機関であり、地域協力センター活動の一つの柱である「生涯学習相談」は地域住民の教養向上、地域文化の振興に寄与している。この生涯学習相談は地域住民に対する公開講座（資料A-1-①-7）、小中学校を対象とした出前授業及び体験学習（資料A-1-②-8）という形で提供している。この中で公開講座数は資料A-1-①-8でも示したように全国の高専の中でも最も多い部類に属し、その分野は商船学や工学にとどまらず、文化系や体育系の公開講座も行われ、多くの教員が研究成果を地域に還元する活動がなされている。例えば、平成18年公開講座「幕末講座・幕長戦争大島口を巡る一海と陸から見る」（資料A-1-②-9）は幕末史が専門の一般科目社会科教員が講師となり、練習船大島丸を使って周防大島の幕末史跡を見学するものであったが、定員を超えるほどの申し込みがあるなど非常に好評であった。また、出前授業には環境問題や災害対策を考えた本校独自のテーマが用意されている。このように地域の特性を考慮した上で、学科の枠を超えた人材と商船高専独自の設備である練習船の共有を行うことにより、優れた活動の成果が上がっている。

- (3) その他の成果

本校は研究活動を通して教育の質向上に大きな努力を注いでいる。この成果として文部科学省が行っている現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下、現代GPと呼ぶ）において、平成18年度に2件が採択された。一つは「ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発」分野において「実学重視のeラーニングサイト構築と展開ー即戦力となる実践技術者養成を目指して」（資料A-1-②-10）というテーマで、本校単独の取り組み課題である。もう一つは、「実践的総合キャリア教育の推進」分野において「海事技術者のキャリア育成プログラムー強い職業意識と高い職業能力を備えた海事技術者の育成ー」というテーマで、富山商船高専をはじめとする全国五商船高専共同の課題である（資料A-1-②-11）。本校単独の課題である「ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発」は、本校教育体制を支える「商船教育」「工学教育」「共通教育」がそれぞれの特徴を活かし、「大型船に対する操船シミュレータ」等の実学コンテンツの提供、海技試験対策等の各種資格試験の合格率の向上、英語運用能力の向上、を目標に、九つの特色あるe-Learningコース用のコンテンツを作成し、モバイルエージェント技術により有機的に結合して、より利用し易くするテーマである。これらのコンテンツは操船シミュレータ、モバイルエージェントなどの日頃の研究成果を基盤に、3学科の教員及び一般科目の教員が取り組んでおり、選定理由の中で「本取組は、商船高等専門学校の特色を考慮して学生教育に独創的に取り組む内容を、全校的に組織を挙げて取り組んでいる優れた取組です。」との高い評価を得ている（資料A-1-②-12）。一方、「海事技術者のキャリア育成プログラムー強い職業意識と高い職業能力を備えた海事技術者の育成ー」のテーマでは、海事技術者としての高い職業意識・能力の育成を目指し、商船学科の正課教育と連携し、相補うキャリ

ア育成プログラムを開発，実践することに，全国の5商船高専の連携教育改革事業として取組むテーマであり，本校はWEB講義システムの開発と論理性・表現力育成講座の構築を担当している。この本校担当部分は，その選定理由として「Web上で講義や講演を聴くeラーニングに重点を置いている点は，新しい教育手法への意欲的な取組と評価されます。」との高い評価を得ている。このテーマは本校の教員だけでなく全国5商船高専の人材が有機的に結び付いた結果である。更に他校との交流を深め研究成果を挙げるために平成17年に中華人民共和国青島大学との間に学術交流に関する協定を結び（資料A-1-②-13），平成18年には青島大学ソフトウェア技術学院・高等職業技術学院とのあいだに第1回ジョイント研究シンポジウムACOT1を青島大学にて開催している（資料A-1-②-14）。平成19年以降も毎年開催し，技術交流を深める予定になっている。

その他，外部資金等の獲得状況を資料A-1-②-15に示す。科学研究費補助金，共同研究，受託金，奨学寄付金に関して，件数は少ないものの毎年着実に獲得している。

（分析結果とその根拠理由）

研究目標である美しい環境に恵まれた地域の特性を考慮し，環境に優しいテーマを中心に研究が行われ，成果をあげている。また，商船高専独自の施設である練習船を活用した災害対策に関する研究が行われ，地域の防災計画の一端を担っている。また，生涯学習相談に関しては，非常に多くの公開講座を開催し，商船高専独自の施設と人材を利用した出前授業を行うなど，地域生涯学習に大きく寄与している。更に，研究活動を通して教育の質向上に努める事に関しては，現代GPにおいて平成18年度に2件の課題が採択されるなど，外部からも高い評価を得ている。

以上のことから，研究の目的に沿った活動の成果が十分に上げられている。

資料A-1-②-1

環境に優しい研究のテーマ一覧

テーマ	代表者	外部資金導入状況
太陽光エネルギーで航行する遊漁船	三原伊文	H15 年(株)サンシャイン九州本部 10 万
太陽光発電の発電効率向上	藤井雅之	H15 年(株)原弘産 178 万
船用ディーゼルエンジンの燃費改善に関する研究	川原秀夫	H17 年(有)東亜エンジニアリング 30 万
船用ディーゼルエンジンの大気保全に関する研究	三原伊文	H17 年(株)ヤンマーエネルギー 40 万
実船を利用した船用ディーゼルエンジンの燃費特性に関する研究	岩崎寛希	H17 年(株)東京メカトロサービ ス 30 万
空気の流動化によるダム貯水池からの円滑な粉体の排砂技術に関する研究	尾形公一郎	H18 年(財)中国電力技術研究財 団 164 万
バイオマスからの高付加価値製品の実用化開発	古本啓二	H18 年 産業技術総合研究所中国 センター他 105 万

(出典 環境に優しい研究のテーマ一覧)

資料A-1-②-2

練習船を利用した防災対策に関する研究のテーマ一覧

テーマ	代表者等	特記事項
海上無線 LAN を利用した小型船舶対象の安心ネットワーク構築	浦上美佐子	科学研究費補助金若手研究(B)No。 15700077
無線インターネット装置とミニ FM 送信機による災害時の情報伝達システム	浦上美佐子	特許申請中

(出典 練習船を利用した防災対策に関する研究のテーマ一覧)

太陽光発電設備の発電効率向上と熱利用に関する研究

大島商船高等専門学校

藤井雅之, 奥野澄生 (電子機械工学科), 三原伊文 (商船学科), 浦上美佐子 (情報工学科)

Point

- ネットワーク対応型マイコンと校内LANを利用した発電特性などの計測システム構築
- 既設の太陽光発電設備を水冷することによる発電効率の向上
- 太陽電池を利用した遊漁船「大空2001」の設計・製作・運行特性
- エネルギー問題・環境問題への効果

◆ 本校の太陽光発電設備

単結晶 Si, 標準 3kW, 太陽電池モジュール 8枚が直列接続・3系統が並列接続された系統連系型である。



図1 本校の太陽光発電設備

◆ 発電状況などのモニタリング

太陽光発電設備の発電状況などをモニタリングするために、校内LANを利用してデータの収集を行っている。温度データを詳細に測定するために、遠隔管理が可能なネットワーク対応型マイコンを用いた計測システムを構築した。

◆ 太陽電池の発電効率

太陽電池の最も発電効率の良い温度は25℃と言われているが、夏季では太陽電池アレイの表面温度が50℃を超える日が続き、発電効率が低下する。(平成16年7月)

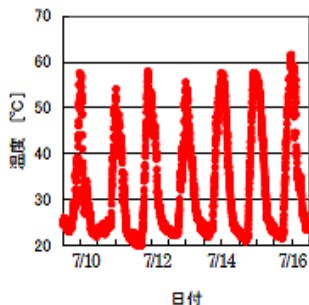


図2 太陽電池アレイ表面温度

◆ 太陽光発電設備の水冷

3系統のうち1系統のみを水冷し、他の2系統と発電電力を比較した。

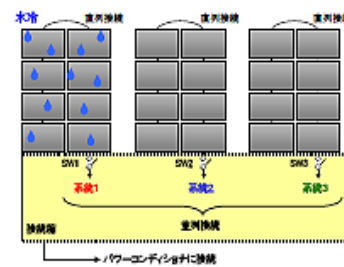


図3 水冷の概略図

◆ 水冷の効果

水冷前と比較して、水冷した時間帯(12:38~13:08)に系統1の発電電力が著しく向上していることが分かる。また、13:40~14:10の間にも発電電力が向上しているが、これは海からの風により太陽電池モジュールが空冷されたことによるものである。

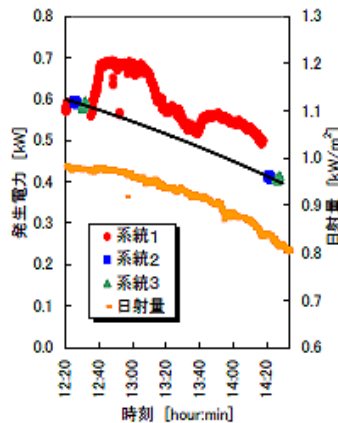


図4 水冷による発電特性の影響

◆ 太陽電池を利用したソーラー遊漁船は、次のコンセプトを満たすように設計された。

- 軽量・リサイクル可能な船体
- 通常漁船並みの耐久性と運航能力
- 夢の船にふさわしい斬新な外觀と操船容易な構造
- 最高速力5ノットの性能(軽量・流線型)

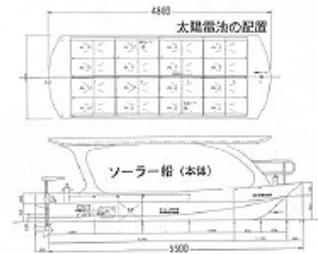


図5 ソーラー遊漁船の設計

◆ ソーラー遊漁船「大空2001」

船体にアルミを用いたソーラー遊漁船「大空2001」を開発した。環境にマッチしたクリーン・静粛・省エネ動力型のソーラー遊漁船が製作され、現在運行特性などの評価を継続している。



図6 ソーラー遊漁船「大空2001」

◆ エネルギー問題・環境問題への効果

太陽電池アレイの水冷は、発電効率を向上するだけでなく、打ち水と同様、ヒートアイランド現象の緩和にも貢献できるのではないかと考えている。

太陽電池を利用したソーラー遊漁船は、CO₂やNO_xなどの排出もなく、静粛性に優れている。

海上無線LANを利用した 小型船舶対象の安心ネットワーク構築

浦上 美佐子^{*}・松野 浩嗣^{**}・岩崎 寛希^{***}

Construction of wireless LAN system for navigating small craft with safety

Misako URAKAMI, Hiroshi MATSUNO and Hiroki IWASAKI

Abstract

Recently, due to an increase of sea accidents, it becomes more important to strengthen measures to ensuring the safe navigation of small craft. Generally speaking, a captain of small craft does not have much experience in safe navigation procedures. If such small crafts have the equipment to communicate with base stations on land or with other crafts sailing near them, it will be of great help for a captain of the small craft, compensating for their lack of experience in safe navigation.

This paper proposes the use of a wireless LAN system on the sea to help captain of small craft to navigate safely. We carried out experiments of some wireless communications on the ad-hoc network constructed in Seto Inland Sea. From the experimental results, we found that wireless communication qualities on the sea are effected by changes in weather conditions and by the passing of large ships. In order to resolve these problems, this paper proposes a plan to use mobile agents which allow small craft to communicate with other stations even in severe wireless communication environments.

Keywords : *Wireless Local Area Network, Mobile Agent, Navigating with safety, small craft*

キーワード : 無線LAN、モバイルエージェント、安心航海、小型船舶

1. はじめに

近年小型船舶操縦士の免許保有者の増加に伴い、遊漁船やプレジャーボートのような小型船舶の海難事故は増加傾向にある。海上保安庁の統計によると、要救助海難のうち3分の2が小型船舶であり、小型船舶の航海の安全対策が重要な課題となっている⁽¹⁾。

この発生原因は、

- (1) 手軽に免許取得可能で、船長が経験不足の場合が多いため、操船不適切等の運行の過誤や機関取扱不良が多いこと
- (2) 海上は目標物が少ないため、救助を求める際にも自船の位置が分からなくなる場合が多いこと

(3) 主な通信手段である携帯電話は自ら情報発信・取得を行う必要があるため、突然の転覆事故や気象状況変化に対応できないことが多いこと

(4) 大型船のように法律で定められた共通回線がないため、近場にいる他船への救助連絡を行うことや他船からの緊急連絡を受け取ることが出来ないことが多いこと

などが挙げられる。このような原因による海難事故の防止や事故後の迅速な対応は、“経験”、“判断”、そして“共通連絡手段の確保”が重要となる。小型船舶はその船体特徴から、海難が人命の損傷に結びつく恐れが大きいため、これらを補うことが出来

- 正会員 大島商船高等専門学校情報工学科、山口大学大学院理工学研究科
(〒742-2193 山口県大島郡大島町大字小松 1091-1) misako@oshima-k.ac.jp
- 非会員 山口大学理学部 matsuno@sci.yamaguchi-u.ac.jp
- 正会員 大島商船高等専門学校商船学科 iwasaki@oshima-k.ac.jp

「無線インターネット装置とミニ FM 送信機による災害時の情報伝達システム」

大島商船高等専門学校 情報工学科 講師
浦上 美佐子

【本システムの特徴(容易性, 新規性, メリットについて)】

□ 災害発生後の連絡網の確保(かつ, 混線しない通信網)

過去の新潟中越地震や福岡県西片沖地震においても, 災害時に携帯電話アンテナ塔の崩壊や防災無線基地局の崩壊し, また, 通信可能な場合でも, 輻輳等により緊急時に対応できなかったことが報告されている. 本システムでは, 災害後に構築可能な情報通信網を提案する. さらに提案システムで使用する機器は, 全て免許不要で使用でき(無線 LAN, ミニ FM), かつ安価に構築可能である. さらに, 防災訓練程度の訓練で操作可能であるため, 専門家が不在な緊急時にも対応可能であるといえる.

□ 情報弱者を作らない通信網の構築

日常生活で使用しているラジオを用いることにより, 操作性が高いといえる.

□ 救援物資の配給情報・被災情報・安否情報の複数データの発信

本システムは, 無線 LAN を使用するため, 複数の情報(安否情報, 救援物資情報, 多国語情報など)をデジタル化して同時配信できる. このことにより, 具体的な情報の内容や情報受信の場所・時間を利用者側が選択して受信できるようになる.

【従来システムとの比較】

被災後の FM 放送の効果は, 阪神・淡路大震災や新潟中越沖地震において, コミュニティ FM で実証されており, 情報弱者にも優しい通信手段となっている. しかしながら, コミュニティ FM は免許が必要であり, 容易に FM 発信を行えるとは言い難い. コミュニティ FM と違って免許不要なミニ FM は, 微弱電波のため電波到達距離が短いという欠点を持っており, 開設が容易であるにもかかわらず, 災害時での利用報告はない.

一方, 災害時における通信手段の確保には, 無線 LAN を利用することは既に提案されているが, 利用者の操作はパーソナルコンピュータや PDA 等を用いたものであり, 機器を使えないお年寄りや子供も存在しているため, 情報弱者を作ることが強く予測される.

本提案システムは, ミニ FM と無線 LAN の利点を生かしたシステムとなっている. 情報を集約しているセンターから避難所まで, 災害後に無線 LAN を構築し, 災害に関する複数の音声情報をデジタル放送し, 避難所内でアナログ変換して, ミニ FM 送信機で避難所内の被災者に放送する.



(出典 特許出願説明資料抜粋)

平成18年度

出前授業 出前授業の様子はこちら

大島商船高等専門学校

No.	テーマ	講師	内容	対象	備考
1	音声で3Dアニメーションを動かそう	岩崎寛希 (コンピュータ美術の第一人者)	パソコンで3Dアニメーションを作成してみよう。	中学生	準備いただくもの: スクリーン
2	ネットワーク社会のマナーとモラルを考える	浦上美佐子 (コンピュータの達人)	上手にインターネットを利用できる人になるために、ネットワーク社会のマナーとモラルについて考えていきます。	小学生 (高学年) 中学生	準備いただくもの: プロジェクタ (なければ持参します。)
3	ロボット技術とものづくりの心	岡野内 悟 (ロボコンの先生)	ものづくりとロボットについての話 レゴ/トルなどの体験学習 ロボットなどの製作指導やロボット実演	小学生 中学生	実施方法や内容詳細は、相談の上決めます。
4	おもしろロボット	清水聖治 (電子工作ならお任せ)	「プランコロボット」は「さらさら博」に出展したすぐれもの、「大車輪ロボット」は最新作でさらに楽しめるはず。みなさんはプランコをどうやってこぎますか？この授業では、大島商船で製作した小さなロボットにうまくプランコをこがせるためにいろいろ考えます。	小学生 中学生	小さなロボット2台を連れて行きます。 準備いただくもの: スクリーンと AC100V 電源、よく回る回転椅子(背もたれ・肘掛つきが安全)いです。
5	ものの流れ お金の流れ -激安ショップの謎-	新谷浩一 (物産の研究者)	激安ショップは、なぜものを安く売ることができるのか、なぜものを安く売っているのか、ということについて解説します。	中学生	準備いただくもの: PCプロジェクタ、スクリーン (プロジェクタはなければ持参します。)
6	流れのマジック	角田哲也 (流れの専門家)	飛行機が空を飛ぶのも、野茂のフォークボールも理屈は同じ。 風洞実験、流れの可視化実験でよく理解できます。	中学生	準備いただくもの: スクリーン
7	船は どうして浮いているの？ どうして走るの？	辻 啓介 (船の交通はお任せ)	丸木舟から始まった船の歴史。「鉄の船がどうして浮くのか」など、浮力と安定の問題を中心に、船の材料・動力・航海術の歴史について、その社会的背景とともにお話します。	小学生 (高学年) 中学生	準備いただくもの: プロジェクタ、スクリーン 水槽があれば、浮力と安定の実験をお見せします。
8	雲から探る天気予報	名誉教授 福谷恒男 (気象予報士)	雲の発生のおもしろさを簡単な実験で楽しく体験した後、天気予報に利用できるさまざまな雲の特徴を美しい写真とともに説明して気象に対する関心を高めます。	中学生	「海洋気象のABC」(成山堂)という本の著者です。 準備いただくもの: スクリーン
9	サバイバル・レッスン	藤井敬治 (練習船一等航海士)	続発する地震や重大気象災害に備えての日頃からの準備・心構えや最初の3日間をどう生き延びるかについて考えます。防災グッズでの実体験、救急食料の試食、実戦に役立つロープワークを行います。今すぐ自分にできることは何でしょうか。キーワードは「3と5」です。	小学生 中学生	準備いただくもの: 試食用の電気ポット(2ℓ以上)と水 防災テキスト・緊急一覧表をプレゼントします。 練習船「大島丸」に乗船しての授業も可能です。
10	豪華客船「タイタニック号」の沈没から考える		世界三大海難から現代に引き継がれている身近な話(SOS信号)、映画のウソをきっかけに安全意識・危険予知を考えます。		タイタニック号海難記事(当時の新聞・英語)のコピーをプレゼント。
11	海と環境について	古賀英司 (練習船船長) 藤井敬治 (練習船一等航海士)	美しい海を守ることの重要性和地球環境問題、そして地球に優しく日本にいろいろなものを選ぶ船について考えます。環境を守るために自分たちにできることを身近に見つけ、それを行動に移すことから始めましょう。	小学生 中学生	テキストを配布します。 準備いただくもの: テレビ(VTR(20分)を放映します。) 練習船「大島丸」に乗船しての授業も可能です。

★ 日時等につきましては、個々にご相談させていただきますので、申込書にはご希望の年月日等を記入ください。

★ 連絡先:大島商船高等専門学校 庶務課 専門職員 0820-74-5457

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 OSHIMA National College of Maritime Technology

公開
講座

<幕末講座>

幕長戦争(四境の役)大島口を巡る -海と陸から見る戦闘地-

周防大島町教育委員会・大島商船高等専門学校 共同企画



久賀沖の前島



明治百年記念公園(久賀)

お問合せ・お申込は

周防大島文化交流センター

〒742-2512
大島郡周防大島町平野 417-11
電話:0820-78-2514
受付時間:9:30から18:00
毎週水曜日は休館です。

幕末期の周防大島でどのような戦いが行われたのか、海と陸から戦闘地を巡ってみませんか？

周防大島は、慶応2(1866)年6月7日、長州藩と幕府との戦争が開始されたところです。大島口は、いちど幕府軍に占領され、高杉晋作の夜襲をきっかけに取り戻されました。本講座では、まず大島丸に乗って高杉晋作が幕府軍艦に夜襲をかけた久賀沖へ、さらにバスに乗って長州軍と幕府軍が闘った大島各地に向かいます。

開催日時	平成 18 年 9 月 2 日(土曜) 9:00~16:00 9:00 大島商船高専テニスコート裏駐車場集合、大島丸乗船 資料配布、予定について事前説明 (大島丸講義室) 9:15 商船棧橋出港 久賀方面→前島→笠佐島 11:30 サバイバルレッスン(非常食試食会)、商船棧橋着 12:30 大島丸下船 13:00 集合、バス乗車 13:10 発車 周防大島町内の各地へ 16:00 大島商船高専着 16:10 解散
会場	大島丸・周防大島町各地
対象	市民一般、小中高生
募集人数	30人(先着順)
担当	田口由香・大島丸(安尾船長他) 周防大島町教育委員会社会教育課 川口智氏
申込方法	周防大島文化交流センターへ電話でお申し込みください。 ●受付期間 8月1日~8月21日 ●9:30~18:00 ●お伝えいただく内容 ①氏名②年齢(児童学生は学校名と学年) ③性別④郵便番号と住所 ⑤電話番号 ※電話以外でのお申し込みはご遠慮願います。また、毎週水曜日は休館のため受付できませんので、ご了承ください。
講習料	1000円(保険料・昼食として非常食試食代)
その他	大島丸船内においてサバイバルレッスン(非常食試食会)があります。

(出典 大島商船高等専門学校学校ホームページ)

実学重視のeラーニングサイト構築と展開

－即戦力となる実践技術者養成を目指して－

Development of e-Learning Contents for Practical Learning

- Training for Equipping Engineers with Practical Skills -

○清水 聖治^{*1}
Seiji SHIMIZU

キーワード：実学コンテンツ、資格試験、英語運用能力、Blended Learning、モバイルエージェント
Keywords: Practical Learning, Qualifying Examination, Working Knowledge of English, Blended Learning, Mobile Agent

1. はじめに

文部科学省は平成16年度から「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）を実施しているが、平成16年度86件、平成17年度84件、平成18年度112件の取組が選定され支援を受けている。大島商船高等専門学校（本校）は平成16年度から毎年申請していたが、平成18年度に本取組が選定された。実施期間は平成20年度までの3年間である。現代GPでは文部科学省が社会的要請の強い政策課題に関するテーマを六つ設定しているが、本取組はテーマ6：ニーズに基づく人材育成を目指したe-Learning Programの開発に属する。

2. 取組概要

本取組では、e-Learningに対して全校的に取り組む。本校教育体制を支える「商船教育」「工学教育」「共通教育」がそれぞれの特徴を活かし、特色ある九つのe-Learningコース用のコンテンツを作成する。それらをサーバに蓄積、オンデマンド配信するが、正規授業では、従来の教育方法と組み合わせてBlended Learning的に利用する。そこで、一般教室等でも、これらのコンテンツを利用することが必要であるので、必要最小限の情報基盤整備にも取り組む。また、教育効果の調査により教育方法へのフィードバックを行う。本取組の特徴は、産業界からの渴望されているより即戦力に近い人材の養成にある。そのために、「大型船に対する操船シミュレータ」などの実学コンテンツの提供、海技士試験対策などの各種資格試験の合格率の向上、英語運用能力の向上を目指す。さらに九つのコンテンツはモバイルエージェント技術により有機的に結合して、より利用し易くする。

^{*1} 大島商船高等専門学校現代GP取組担当者

3. 目的

コンテンツの分類とその目的を次に示す。

- 実学コンテンツ
現場でのより高い知識活用能力と問題解決能力の養成
- 資格試験対策コンテンツ
より上位、多種の資格取得者の増加
- 英語運用能力対策コンテンツ
外国人と共に働くための英語運用能力の向上

4. 各コンテンツ名称

九つのe-Learningコース用コンテンツの名称と分類を次に示す。

- 実学コンテンツ
 - 操船シミュレータを用いた大型船操船訓練システムの開発
 - 機関故障診断学習システムの開発
 - 練習船大島丸のLANによるデータ処理システムの利用ガイドの開発
 - Cプログラミング教育
 - エージェント技術教育と情報検索システム開発
- 資格試験対策コンテンツ
 - 海技試験対策コンテンツ
 - CAD学習システムの開発
 - 電気関係試験対策
- 英語運用能力対策コンテンツ
 - 英語教育

5. 取組の実施体制

図1に本取組の実施体制を示す。九つのe-Learningコース用コンテンツの制作担当者が構成する実行委員会を中心となってコンテンツの制作を行う。校長室、情報教育センター、地域協力センターがその支援を行い、e-Learningに対しては全校的に取り組む。

（出典 教育工学学会論文（投稿予定・抜粋））

現代GP「海事技術者のキャリア育成プログラム」 - 強い職業意識と高い職業能力を備えた海事技術者の育成 -

富山商船高等専門学校（幹事校）
鳥羽商船高等専門学校 広島商船高等専門学校
大島商船高等専門学校 弓削商船高等専門学校

背景 現行の海事技術者育成カリキュラムの特徴と現状

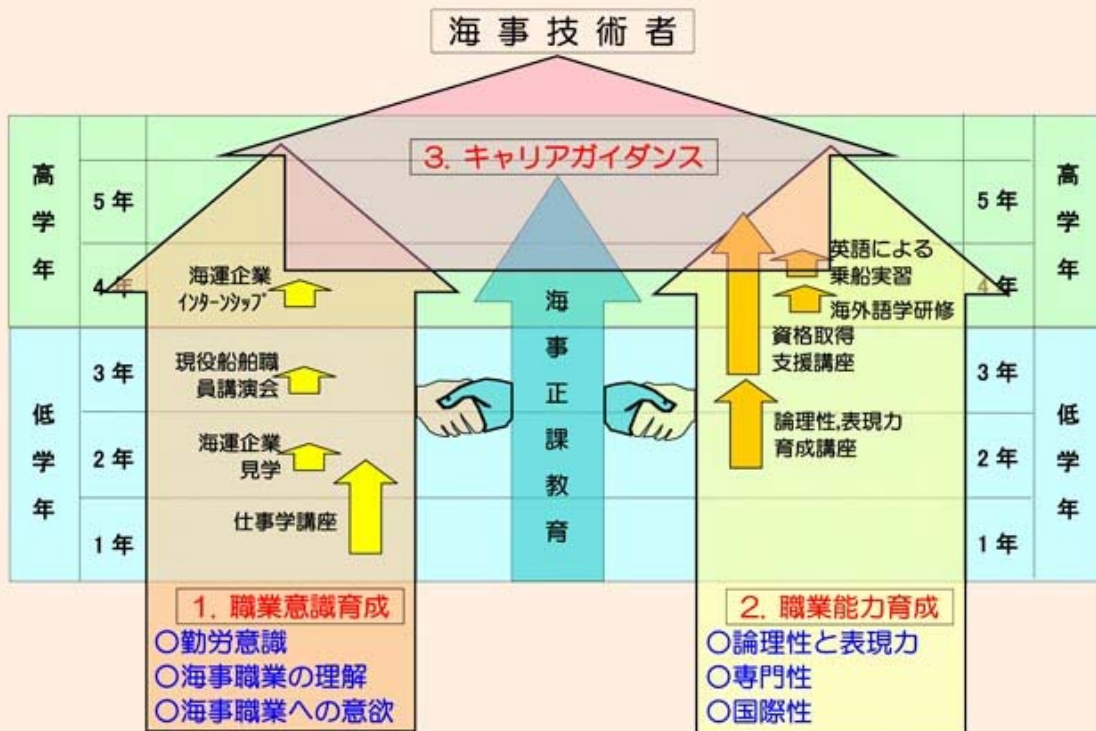
- ・ 海技士国家資格（国交省）取得を目指し、カリキュラム(商船学科)は船舶職員養成科目で構成
- ・ 進路は船舶職員を始めとする海事関連産業
- ・ 入学時から海事分野への強い意欲と意識が必要
- ・ 現代学生の希薄な職業意識と商船学科固有の特徴が相まって、海技士資格取得率及び就学達成率は伸び悩み

目標

- ・ 海事技術者としての高い職業意識・能力の育成を目指す
- ・ 商船学科の正課教育と連携し、相補うキャリア育成プログラムの開発
- ・ H18年度からH20年度までの3年間の五商船高専の連携教育改革事業としての取組み

キャリア育成プログラムの概要

- 1.職業意識の育成** 働く意識の育成、海事技術者を目指す意識の育成
- 2.職業能力の育成** 論理性・表現力の育成、資格証明の伴う専門性の育成、国際性の育成
- 3.キャリアガイダンス** 自らがキャリアプランニングできる学生の育成



(出典 富山商船高等専門学校ホームページ)

大学等名	大島商船高等専門学校
整理番号	6067
テーマ番号	6
テーマ名	ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発
取組名称	実学重視の e-ラーニングサイト構築と展開－即戦力となる実践技術者養成を目指して
取組担当者名	清水 聖治
(取組の概要)	<p>本取組では、e-Learning に対して全校的に取り組む。本校教育体制を支える「商船教育」「工学教育」「共通教育」がそれぞれの特徴を活かし、特色ある 9 の e-Learning コース用のコンテンツを作成する。それらをサーバに蓄積、オンデマンド配信するが、正規授業では、従来の教育方法と組み合わせで Blended Learning 的に利用する。そこで、一般教室等でも、これらのコンテンツを利用することが必要であるので、必要最小限の情報基盤整備にも取り組む。また、教育効果の調査により教育方法へのフィードバックを行う。本取組の特徴は、産業界からの渴望されているより即戦力に近い人材の養成にある。そのために、①「大型船に対する操船シミュレータ」等の実学コンテンツの提供、②海技試験対策等の各種資格試験の合格率の向上、③英語運用能力の向上を目指す。さらに 9 のコンテンツはモバイルエージェント技術により有機的に結合して、より利用し易くする。</p>
(選定理由)	<p>本取組は、商船高等専門学校の特色を考慮して学生教育に独創的に取り組む内容を、全校的に組織を挙げて取り組んでいる優れた取組です。また、既存の授業で実習に用いられているシミュレータとの効果的な Blended Learning によって、効果を挙げようとするなど、本成果が他の高専等の教育方法改善の参考になると期待されます。</p> <p>今後は、作成される教材を学生指導にどのように活用するかについての十分な検討が望まれます。また、設置の整備が主でなく、e-Learning コンテンツの開発を中心に取組まれることが望まれます。</p>

(出典 平成18年度現代GP選定結果について (報告) 文部科学省ホームページ)

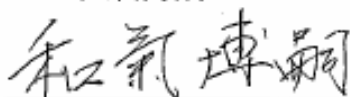
日本国大島商船高等専門学校と中華人民共和国青島大学との
学術交流に関する協定書

大島商船高等専門学校と青島大学の学術交流および友好協力関係を促進し発展させるために、大島商船高等専門学校は学校全体を実施単位とし、青島大学は応用技術学院を主要実施単位とし、双方全面的に協力する。双方友好協議を経て、ここに本協定を締結する。具体的内容は次のとおりである。

1. 双方は、平等・互恵の原則に従って、相互協力し、次の各事項を実施、発展させる。
 - (1) 教員・研究者の相互交流訪問
 - (2) 学術資料および関連する情報の交換
 - (3) 開催する各種学術研究会に他方を招聘
 - (4) 共同研究と共同開発の推進
 - (5) 産学連携の促進
 - (6) 学生の相互交流派遣
2. この協定を円滑に実施するために、各項の具体的連携については別途実施細則に定める。
3. この協定を変更する場合は、双方は公文書を交付し同意する必要がある。
4. この協定は、締結の日から効力を生じ、有効期間を5年とする。その後は、双方とも、この協定解消の意思がなければ、この協定は自動的に継続するものとする。
5. この協定は、日本語および中国語により二通作成し、両文書は同等の効力を持つ。双方とも、この協定書の日本語、中国文各一通を所持する。

日本国大島商船高等専門学校長


和氣博嗣



2005年12月22日

中華人民共和国青島大学長

夏臨華



2005年12月22日

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

ウェブニュース - Windows Internet Explorer

http://www2.cc.oshima-k.ac.jp/pjimu/ssenmon/webnews18/110

Google

検索

ブックマーク

ブロック数: 65

チェック

設定

ウェブニュース

ページ(P)

ツール(T)

大島商船、青島大学と研究シンポジウム開催

平成18年11月1日、大島商船高等専門学校と青島大学ソフトウェア技術学院・高等職業技術学院は、ジョイント研究シンポジウムACOT1 (The 1st Asian (QDU-OCMT) Cooperative Technology and Education Conference) を、中国、青島大学において開催しました。本校からは、国際交流推進室長榎田直規教授を団長とし、情報工学科松井利幸教授、電子機械工学科増山新二助教授の3名が参加し、青島大学側とあわせ10件の講演および研究発表が行われました。内容は、情報工学、電子機械工学をはじめ、工学全般と基礎教育など、双方の教育研究の広範囲にわたるものとなりました。

次回は平成19年7月に本校においてACOT2の開催を予定しています。また学生交流についても、早期の実現に向け、検討を始めています。



ページが表示されました

インターネット

100%

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

資料A-1-②-15

科学研究費補助金採択状況

区分 \ 年度	平成 16 年		平成 17 年		平成 18 年	
	採択 件数	金額(千円)	採択 件数	金額(千円)	採択件 数	金額(千円)
基盤研究(C)	3(1)	4,000(800)	2(1)	2,500(300)	0	0
若手研究(B)	4(2)	4,800(1,000)	2(2)	900(900)	3(1)	4,600(400)
計	7(3)	8,800(1,800)	4(3)	3,400(1,200)	3(1)	4,600(400)

()は継続分で内数

共同研究

単位 千円

区分 \ 年度	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
	件数	2	4
受入金額	1,700	1,450	1,500

受託研究

単位 千円

区分 \ 年度	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
	件数	0	1
受入金額	0	520	1,310

奨学寄付金

単位 千円

区分 \ 年度	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
	件数	1	1
受入金額	150	200	1,870

現代 GP

単位 千円

区分 \ 年度	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
	件数	0	0
受入金額	0	0	26,381

(出典 運営委員会資料)

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

研究目的の一つである科学技術相談においては、研究活動等の実施状況の把握と改善を図っていくための体制として地域協力委員会のもとに地域協力センターを設置し、教員の研究活動に対する技術支援体制の一元化や受託研究の受け入れを行い、地域協力委員会にて運営に関する審議をしている(資料A-1-③-1)。また、研究業績は本校紀要に掲載し、電子化しホームページ上で学外からも自由に閲覧できるようにしている(資料A-1-③-2)。更に、研究シーズ集を作成し科学技術相談を受けやすくしている。

また、研究活動推進面における校長室の占める割合は大きい。例えば、観点A-1-①でも述べたように中期計画達成予算と称してヒアリングの後、研究費を補助する制度がある。これに関しては、翌年度の6月に成果発表会(資料A-1-③-3)を開き、予算が効果的に使われたかをチェックしている。

研究目的のもう一つである生涯学習相談においては、公開講座・出前授業などをポスターだけでなく、ホームページ上でも募集し、その様子も公開している(資料A-1-③-4)。また、公開講座ではその都度受講者に対してアンケート(資料A-1-③-5)を行い、成果や問題点の把握に努めている。

これらのことから、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているといえる。

(分析結果とその根拠理由)

地域協力センターが設置されており、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

平成18年度 地域協力委員会 議事要旨

1. 開催日時 平成19年2月1日(木) 15時55分～16時45分
2. 開催場所 地域協力センター
3. 出席者 平畑幸作(教務主事) 辻 啓介(商船学科主任) 松井利幸(情報工学科主任)
松田充夫(地域協力センター長) 田村和彦(庶務課長) 松浦政裕(会計課長)
山重宏幸(庶務課)
欠席者 奥野澄生(電子機械工学科主任) 吉富知行(一般科目主任)
出川隆富(学生課長)

4. 議事要旨

(1) 地域協力センターの活動計画について(松田地域協力センター長)

- ・地域協力センターの活動状況、および計画について報告があった。
(企業訪問キャラバン、産学技術交流会、地域協力活動の情報収集、研究会のあり方・専攻科活用、特許講習・インターンシップ等)
- ・本校が、2007中国地区地域協力センター長会議の当番校となっているので、開催に向けて早めに準備をしたい。(9月ごろ開催予定)
- ・研究者マップについて、冊子版を作成中であり、今年度中に完成予定。HPへの掲載は、時間・予算等の都合で当面は難しいが、今後検討していきたい。

(2) 公開講座について(委員長)

①平成18年度公開講座実施状況について

- ・実施状況を報告した。(受講者数・満足度アンケート結果等)
- ・受講者数の少ない講座については、内容を工夫して、受講者を増やす努力が必要。

②平成19年度公開講座募集について

- ・平成19年度公開講座料金及び名称について、高専本部監事監査での指摘事項(一般人向けの公開講座は、受講料を減額して開講することは出来ない。減額で開講するならば「公開講座」の名称を使用せず、「教養講座」等の名称で開催してもらいたい)を説明。
- ・平成19年度公開講座に関しては、「公開講座」「教養講座」の2本立てで開催する。企画募集の段階で、担当教員に「公開講座」「教養講座」の違いを説明し、どちらかを選ぶ形にする。募集方法は、昨年度同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出(締切りは3月2日(金))とする。

(3) 出前授業について(委員長)

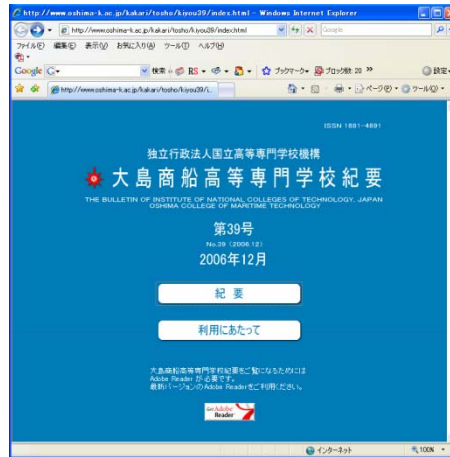
①平成18年度出前授業実施状況について

- ・実施状況を報告した。(件数、出前講師、出前先等)

②平成19年度出前授業の募集について

- ・昨年同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出(締切りは3月2日(金))とする。

(出典 地域協力委員会議事要旨)



学外研究業績一覧

1. 学位論文及び著書 (2005年4月～2006年3月)

氏名	著書	出版社又は大学	発行年月	備考
新谷浩一*	国際海上コンテナ輸送における寄港ルートネットワークに関する研究	神戸大学	2005.9.	*商船学科 博士(工学)
Jongdoc PARK*	Subcooled Pool Boiling CHF: for Various Liquids due to Steady and Transient Heat Input	神戸大学	2006.3	*商船学科 博士(工学)
石原良晃*	輸送用梱包材リユースシステムを対象とした配送計画に関する研究	広島修道大学	2006.3	*情報工学科 博士(経済情報)
石田依子*	『サリー・ヘミングスー慕じられた愛の記憶』(原書: <i>Sally Hemings</i> , by Barbara Chase-Riboud) (日本図書館協会推薦図書選出)	大塚教育図書	2006.3	*一般科目 単訳著 (全519頁)

2. 論文及び解説

氏名	論文名	発表誌名	発行年月	備考
H. Kawahara* T. Nishimura** N. Kushida***	Dynamic Behavior of Lifted Methane Flames in the Combustion Field with the Circulating Flow	Proceedings of Asian Symposium on Ecotechnology, pp.63-66	2005.8	*商船学科 **山口大学 ***電子機械工学科
Hironori Kitakaze* Hiroshi Matsumo** Nobuhiko Ikeda*** Satoru Miyano****	Prediction of Debacle Points for Robustness of Biological Pathways by using Recurrent Neural Networks	Genome Informatics 16(1), pp.192-202	2005.8	*商船学科 **山口大学 ***徳山高専 ****東京大学
Hironori	XMI, Pathway Format Comparison An		2005.11	*商船学科

5. 特許関連

発明者	発明の名称	特許番号及び特許出願番号	取得年月日
奥野澄生* 川崎健 牧野俊昭 戸取征二郎 稲住彦	車両の内装の取り付け方法および内装構造	特許第 3678013	平成 17 年 05 月 20 日 *電子機械工学科
奥野澄生* 山地和文 正井健太郎	軌条車両	特許第 3725043 AU (豪); P781267 KR (韓国); P00655929	平成 17 年 09 月 30 日 平成 17 年 09 月 01 日 平成 18 年 02 月 21 日 *電子機械工学科
中村英之 奥野澄生* 牧野俊昭 佐川年且	軌条車両	特許第 3725057 KR (韓国); P00496486	平成 17 年 09 月 30 日 平成 17 年 06 月 13 日 *電子機械工学科

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

第5回大島商船高等専門学校教員研究講演会

日時：平成18年6月7日(水) 10:00～16:00 場所：視聴覚教室(図書館1F)
9:30～ 受付
10:00～10:15 開会挨拶～

1. 開会挨拶…岡宅泰邦 図書館長
2. 校長挨拶…和氣博嗣 大島商船高専校長
3. 研究発表(発表10分、質問5分、計15分)

午前の部

総合司会：岡宅泰邦 図書館長

発表時間	テーマ	所属	発表者
10:15～10:30	微粉末の流動化操作を用いた供給輸送方法の検討	電子機械工学科	尾形公一郎
10:30～10:45	疲労試験機の設置と活用	電子機械工学科	奥野澄生
10:45～11:00	実践的技術者の養成のための実験実習テキスト開発の試み(ボラリスプロジェクト2005)	電子機械工学科	松田充夫
11:00～11:15	休憩		
11:15～11:30	製図室の環境整備(2)	電子機械工学科	藤井雅之
11:30～11:45	マルチメディア教育システム	情報工学科	松井利幸
11:45～12:00	パソコンメンテナンス技術指導	情報工学科	石原良晃

◆12:00～12:30 昼食(図書館2F会議)

◆12:30～13:00 懇談会(図書館2F会議)

午後の部

総合司会：松田充夫 地域協力センター長

発表時間	テーマ	所属	発表者
13:00～13:15	地図情報と各種データベース統合システムの一検討	情報工学科	塩田宏明
13:15～13:30	海上無線ネットワークを利用した避難所間通信システムの構築実験-自律無線ネットワーク構築とミニFM送信機との連携-	情報工学科 一般科目	浦上美佐子 吉留文男
13:30～13:45	CMOS センサを用いた光沢評価	情報工学科	杉野直規
13:45～14:00	休憩		
14:00～14:15	マイクロカーを利用した機関総合工学実験の可能性	商船学科	川原秀夫
14:15～14:30	学生実験用小型噴流装置の製作	商船学科	角田哲也
14:30～14:45	商船学科実験実習(電気・電子関連)強化プロジェクト	商船学科	北風裕教
14:45～15:00	休憩		
15:00～15:15	PWC レスキューによる危機管理教育の実践	一般科目	幸田三広
15:15～15:30	明治維新と大島周辺に関する研究-月性門下と大島口戦について-	一般科目	田口由香
15:30～15:45	A Strategy for Improving Listening Ability	一般科目	宮奥正道

4. 閉会挨拶…岡宅泰邦 図書館長

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)



(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

デジカメ写真を加工しよう 18.8.5

★ 公開講座についてのアンケート ★

各項目の右の欄の カタカナ (ア・イ・・・)、数字等には○をつけて、記入欄にはそのまま記入して回答をお願いいたします。

1	性別を選んでお答えください。	ア. 男 <input type="radio"/> イ. <input checked="" type="radio"/> 女
2	年代を選んでお答えください。	ア. 9才以下 イ. 10代 ウ. 20代 エ. 30代 オ. 40代 カ. 50代 <input checked="" type="radio"/> キ. 60代 ク. 70代 ケ. 80才以上
3	職業を選んでお答えください。	ア. 小学生 イ. 中学生 ウ. 高校生 エ. 高専生 オ. 大学生 カ. 会社員 キ. 公務員 ク. 自営業 ケ. その他(無) <input type="radio"/>
4	お住まいの地域を選んでお答えください。	ア. 周防大島町 <input checked="" type="radio"/> イ. 柳井市 ウ. 岩国市 エ. その他() <input type="radio"/>
5	この講座を何で知りましたか。	ア. ポスター イ. 新聞 <input checked="" type="radio"/> ウ. ホームページ エ. 広報誌 オ. その他(昨年受講したため案内送付あり) <input type="radio"/>
6	この講座に満足していただけましたか。 (5段階の点数に○をお願いします)	<input checked="" type="radio"/> 満足 5 4 3 2 1 不満足
7	内容は理解できましたか。 (5段階の点数に○をお願いします)	<input checked="" type="radio"/> 理解できた 5 4 3 2 1 よく分からなかった
8	時間はいかがでしたか。	ア. 長かった イ. やや長かった <input checked="" type="radio"/> ウ. ちょうどよい エ. やや短かった オ. 短かった どのくらいが適切と思われるか。()時間
9	今後どのようなテーマを講座で取り上げて欲しいですか。	メール添付(画像)をいさ(する)方法等
10	その他、ご意見やご要望をお書きください。	この講座の受講をたのみにしております。 少しでも勉強として頭を活性化したいと 思っています。

ご協力ありがとうございました。

(出典 公開講座アンケート)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 穏和な気候と美しい環境に囲まれた地域の特性を考え、商船高専独自の研究施設である練習船を利用し、環境に優しい技術と災害対策を目指した研究が行われ、優れた成果を出している。
- ・ 研究活動の目標の一つである生涯学習相談に対して、非常に多くの公開講座や出前授業をし、地域貢献が積極的に行われている。
- ・ 現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおいて、平成18年度に2件が採択されるなど、研究成果を教育に結びつける活動が非常に活発に行われ、外部からも高い評価を得ている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

地域の特性と周辺環境を意識した特色ある研究を推進し科学技術相談を行う、練習船などの商船高専独自の施設と人材を活かした研究を行い公開講座や出前授業を通して地域の生涯学習相談を行う、を研究活動の目的とし、この目的達成のため、地域協力センター、練習船運航委員会、校長室などの研究支援体制がある。

この体制のもと、温和な気候と美しい環境が特徴である地域の特性を考え、環境に優しい技術を目指した研究が多く行われている。また、高齢化が進み地震などの災害時には大きな被害が発生することが予想される地域にあり、商船高専独自の施設である練習船を利用した災害対策に関する研究が行われている。また、地域協力センター活動の一つの柱である「生涯学習相談」は、地域住民に対する公開講座、小中学校を対象とした出前授業及び体験学習という形で提供している。この中で公開講座数は全国の高専の中でも最も多い部類に属し、その分野は商船学や工学にとどまらず、文化系や体育系の公開講座も行われ、学校をあげて多くの教員が研究成果を地域に還元する活動がなされている。更に、現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおいて、平成18年度に2件が採択されるなど、研究成果を教育に結びつける活動が非常に活発に行われ、外部からも高い評価を得ている。

研究目的の一つである科学技術相談においては、研究活動等の実施状況の把握と改善を図っていくための体制として地域協力委員会のもとに地域協力センターを設置し、地域協力委員会にて運営に関して審議をしている。校長室関係の予算では、成果発表会を開き、予算が効果的に使われたかをチェックしている。研究目的のもう一つである生涯学習相談においては、様子をホームページ上で公開し、受講者に対してアンケートを行い、成果や問題点の把握に努めている。

(4) 目的の達成状況の判断

達成している。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

大島商船高等専門学校（以下、本校）は、山口県東部の屋代島（通称 周防大島）に位置し、平成19年度に創立110周年を向かえ、地域と長い歴史を持っている。本校は船員養成のみならず工業技術者育成にも力を注いでおり、そのための教授陣および設備が整っている。その中で、長い歴史を共有する地域への貢献を目的として以下の事項を挙げて実施している。

1. 小中学生，一般市民を対象とした公開講座を推進する。
2. 図書館等の開放，研究施設の開放を行う。
3. 生涯教育やリカレント教育等の学習の場を提供するためのプログラムを整備する。（高齢者を対象としたIT講習会等の開講等）
4. IT要素技術の講習会実施と地域環境整備（IT関連）への働きかけを行うことによって地域への貢献をする。
5. 出前授業等を行い小中学生との交流を図る。

（本校 中期目標より）

以上の貢献により、本校が地域に受け入れられ、地域とともに発展してゆくことを目標として教育サービスの提供を行っている。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観念に係る状況)

大島商船高等専門学校（以下、本校）では、地域社会との連携を図る目的で本校地域協力委員会を中心に公開講座及び出前授業を計画、実施している（資料B-1-①-1）。地域協力委員会では、開催する公開講座及び出前授業の選定及び募集や実施状況に関する審議、次年度への改善の検討を行っている（資料B-1-①-2）。地域との連携・交流、公開講座の実施スケジュール、図書館の一般公開等は、本校ホームページ（資料B-1-①-3）及びパンフレットの作成、配布、地元周防大島町の広報誌「広報すおう大島」等に掲載し、地元住民への周知を図っている（資料B-1-①-4、-5）。

地域からの要請として、周防大島町教育委員会が主催するIT講習会の開催に協力し、講師及びアシスタントとして専攻科生を派遣している（資料B-1-①-6、-7）。また平成19年度より柳井市と協力して新たな公開講座を実施する。これにより地元周防大島町以外の近隣市町村との連携がさらに進むと考えられる（資料B-1-①-8）。

(分析結果とその根拠)

本校と地域との連携を目的として地域協力委員会を設置し、地域への教育サービス提供活動の一環として地元住民を対象とした公開講座及び出前授業を計画的に実施していることがわかる。（資料B-1-①-1～-5）。また地域の教育活動（IT講習会や文化講演会）への参加も行っている。よって学生以外に対する教育サービスを定期的に行っていることがわかる。

大島商船高等専門学校地域協力委員会規則

制 定 平成元年10月1日

(目的)

第1条 大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を広く提供し、地域社会との連携を図り、もって本校の充実、発展に資することを目的として大島商船高等専門学校地域協力委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(地域協力センター)

第2条 前条の目的を達成するため、地域協力センターを設置し、次の業務を行う。

- (1) 科学技術相談
- (2) 生涯学習相談
- (3) その他地域協力センターの目的を達成するために必要な業務

2 地域協力センター長は、校長が任命する。

(審議事項)

第3条 委員会は、前条の業務を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域の企業、団体、機関その他からの技術相談、技術指導、研究協力並びに生涯学習に役立つ企画協力等（以下「地域からの要請等」という。）に関する事
- (2) 地域協力の方策の立案に関する事
- (3) 公開講座及び出前授業の企画及び立案に関する事
- (4) その他必要な事項

(組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科主任及び一般科目主任
- (3) 地域協力センター長
- (4) 庶務課長、会計課長及び学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(地域からの要請等の受入れ決定)

第6条 地域からの要請等の受け入れは、委員会の協議に基づき、校長が決定する。

ただし、委員長が必要と認めるときは、関係者の意見を聴くものとする。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求めてその意見を聴くことができる。

(事務)

出典：大島商船高等専門学校規則集

資料 B-1-①-1 (続き)

第8条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成元年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年7月5日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

出典：大島商船高等専門学校規則集

平成18年度 地域協力委員会 議事要旨

1. 開催日時 平成19年2月1日(木) 15時55分～16時45分
2. 開催場所 地域協力センター
3. 出席者 平畑幸作(教務主事) 辻 啓介(商船学科主任) 松井利幸(情報工学科主任)
松田充夫(地域協力センター長) 田村和彦(庶務課長) 松浦政裕(会計課長)
山重宏幸(庶務課)
欠席者 奥野澄生(電子機械工学科主任) 吉富知行(一般科目主任)
出川隆富(学生課長)
4. 議事要旨
 - (1) 地域協力センターの活動計画について(松田地域協力センター長)
 - ・地域協力センターの活動状況、および計画について報告があった。
(企業訪問キャラバン、産学技術交流会、地域協力活動の情報収集、研究会のあり方・専攻科活用、特許講習・インターンシップ等)
 - ・本校が、2007中国地区地域協力センター長会議の当番校となっているので、開催に向けて早めに準備をしたい。(9月ごろ開催予定)
 - ・研究者マップについて、冊子版を作成中であり、今年度中に完成予定。HPへの掲載は、時間・予算等の都合で当面は難しいが、今後検討していきたい。
 - (2) 公開講座について(委員長)
 - ①平成18年度公開講座実施状況について
 - ・実施状況を報告した。(受講者数・満足度アンケート結果等)
 - ・受講者数の少ない講座については、内容を工夫して、受講者を増やす努力が必要。
 - ②平成19年度公開講座募集について
 - ・平成19年度公開講座料金及び名称について、高専本部監事監査での指摘事項(一般人向けの公開講座は、受講料を減額して開講することは出来ない。減額で開講するならば「公開講座」の名称を使用せず、「教養講座」等の名称で開催してもらいたい)を説明。
 - ・平成19年度公開講座に関しては、「公開講座」「教養講座」の2本立てで開講する。企画募集の段階で、担当教員に「公開講座」「教養講座」の違いを説明し、どちらかを選ぶ形

出典：地域協力委員会議事要旨

資料B-1-①-2 (続き)

にする。募集方法は、昨年度同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出（締切りは3月2日（金））とする。

(3) 出前授業について（委員長）

①平成18年度出前授業実施状況について

- ・実施状況を報告した。（件数、出前講師、出前先等）

②平成19年度出前授業の募集について

- ・昨年同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出（締切りは3月2日（金））とする。

※各教授へ依頼する。(別紙)
毛
〔近隣在住の方限定〕

提供：地域協力委員会議事要旨

1/3 ページ

Japanese English

お問合わせ 学内ネットワ

大島商船高等専門学校

OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY

HOME

学科・専攻科 紹介 ▶ キャンパスライフ ▶ 入試案内 ▶ 書類ダウンロード ▶

| 学校紹介 | 就職・進学情報 | 教育研究施設 | 地域との連携・交流 | 国際交流 |

地域との連携・交流

- ▶ 地域との連携・交流
- ▶ 公開講座
- ▶ 出前授業
- ▶ 国際交流

- 中学生・高校生の皆様へ
- 在校生の皆様へ
- 保護者の皆様へ
- 卒業生の皆様へ
- 企業・地域の皆様へ
- 働きたい皆様へ

地域との連携・交流

1. こんな方法でお手伝い

大島商船高専は、平成16年4月から独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校となり、新たな一歩を踏み出しました。本校は、商船学科、電子機械工学科及び情報工学科の3学科からなる高等教育機関です。本校では、教育と研究の機能及び設備を開放し、地域の方々のお手伝いをします。そのために校内には次の委員会等を設置しています。

■地域協力委員会

企業等からの各種相談に応じたり、研究協力や生涯学習の推進を図るため「地域協力委員会」を置いています。この「地域協力委員会」の中に、地域協力センターを設けています。



■地域協力センター

【科学技術相談】
商船学、機械工学、電気・電子工学、制御工学、情報工学、計算機工学、自然科学（数学、物理、気象学、化学、体育等）等の分野について、受託研究、共同研究による研究開発、各種試験・分析等の受託、技術指導、情報提供及び各種相談等を担当しています。

【生涯学習相談】
地域の人々のニーズに合った学習機会の充実とその成果を活かすことのできる環境整備を積極的に支援していきます。

●相談窓口

ご相談、お問合せは、下記へご連絡ください。

大島商船高等専門学校
庶務課専門職員
TEL.0820(74)5457
FAX.0820(74)5552
ssenmon@oshima-k.ac.jp

2. 研究協力の諸制度

- 受託研究
民間企業等から特定の研究の委託を受けて、本校の教員が公務として行う研究です。経費は、研究を委託した方に負担していただきます。
- 共同研究
本校に民間企業等から研究者と研究経費を受け入れて、共通の課題について、本校の教員と共同で研究を進める制度です。

<http://www.oshima-k.ac.jp/communication/community.html> 2007/03/13

出典：本校ホームページ

資料 B-1-①-3 (続き)

大島商船高等専門学校

2/3 ページ

また、本校と民間企業等がそれぞれの施設で研究を行う「分担型の共同研究」もあります。
 なお、税制の優遇措置として、民間企業等が支出した試験研究費の一定割合が法人税(所得税)額から控除されます。

★共同研究員の研究料は、有料で、金額は契約書によります。

●奨学寄附金

民間企業等や個人篤志家からの寄附を受け入れて、本校の研究や教育の充実発展に活用させていただきます。制度です。「〇〇に対する研究」等研究目的を指定したのもも可能です。
 なお、税制上の優遇措置として、国に対する寄附金となり、法人の場合は、全額を損金に算入、個人の場合は、所得の25%を限度として、所得控除ができます。

●受託試験

企業等からの依頼に応じ、一定の料金を委託者に負担していただき、試験、分析、鑑定等を公務として行う制度です。

●研究生・聴講生・科目等履修生

種別	制度のあらまし	資格期間等	経費
研究生	希望するテーマについて、指導教員の指導のもとで研究を行う。	高等専門学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有するもの(入学の時期)4月(期間)半年又は1年	所定の検定料、入学料、授業料を要する。
聴講生	希望する科目の授業を受講する。(実験、実習は除く)	高等学校卒業程度の学力を有するもの(入学の時期)4月(期間)半年又は1年	同上
科目等履修生	希望する科目の授業を受講する。履修すれば単位を認定する。	同上	同上

●外国人学生

外国人で、本校の2年次以上に編入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人学生として入学を許可することがある。

[▶ 受入状況](#)

●公開講座

毎年7月～8月頃を中心に、様々な分野の公開講座を開催しています。受講者は、講座のテーマ、対象者の年齢、人数などにより制限することがありますが、原則として、誰でも受講できます。受講料は、時間等により異なります。
 なお、その年度に実施する公開講座のテーマについては、ポスター、パンフレット、自治体広報、本校ホームページ等でお知らせしています。

今年度の公開講座

[▶ レポートを見る](#)

●講師派遣

★企業等から要請があれば講師を派遣して支援することが可能です。
 ★小学校・中学校に講師を派遣して出前授業を行っています。

今年度の出前授業のテーマ

[▶ レポートを見る](#)

●産学公技術交流会

産学公技術交流会は財団法人やまぐち産業振興財団主催で毎年開催され、山口県東部(岩国)地域は本校共催で開催しています。「産」「学」の共同研究の推進や、連携ネットワークの構築を目的に講演会や技術シーズの発表が行われます。本校からは、機械、情報・電子等の分野で技術シーズのプレゼンテーションを行います。

●図書館の一般公開

閲覧室における図書の閲覧や館外貸出し及び文献複写(有償)は、所定の手続きをすれば、誰でも利用できます。

開館日:
 月曜日～金曜日…… 8:30～20:00
 土曜日……………13:00～17:00
 (ただし、春、夏、冬季休業中は下記のみ)
 月曜日～金曜日…… 8:30～17:00

蔵書数:

<http://www.oshima-k.ac.jp/communication/community.html>

2007/03/13

資料 B-1-①-3 (続き)

大島商船高等専門学校

3/3 ページ

和漢書……………約63,000冊
 洋書……………約2,600冊
 定期刊行物(雑誌、学会誌)
 ……………約190種

[▲ ページのトップへ](#)

出典：本校 HP

資料 B-1-①-4

★ 独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 OSHIMA National College of Maritime Technology



=ことばの世界 3= 古代日本人と 外国語

昨今外国語学習が盛んですが、古代の知識人たちも外国語学習には熱心でした。特に当時は中国から先進の文化を取り入れる必要があったので、中国語学習は盛んだっただけです。本講座では古代の日本人たちがどのように外国語を学習したのか、見ていくことにしましょう。



- 阿波の国、スワリシ、トコボノ、キツカキヤノ
- 学生雑誌/先生誌
- テキスト
- 島の人

開催日時	平成 18 年 12 月 9 日(土曜) 15:00~16:30 14:30 開場 15:00 古代日本人と外国語 (前半) 15:45 休憩 15:50 古代日本人と外国語 (後半) 16:30 終了
会場	本館会議室
対象	市民一般、高校生
募集人数	30人(先着順)
担当	中澤信幸 ¹⁴ / ₁₇ 3人 / 学生2 $2 \times 500 \times 4 = 4,000$
申込方法	11月6日~12月1日までに、次の必要事項を記入して、はがき、メールまたはFAXで申し込んでください。 ①講座名 ②氏名(ふりがな) ③年齢(児童学生は学校名と学年) ④男女の別 ⑤郵便番号と住所 ⑥電話番号
講習料	無料

お問合せ・お申込は

大島商船高等専門学校
庶務課

〒742-2193
大島郡周防大島町小松 1091-1
電話:0820-74-5457
ファックス:0820-74-5552
メール: ssenmon@oshima-k.ac.jp
HP: http://www.oshima-k.ac.jp

出典：本校 HP

お知らせ 8月

高校生等を使用する事業主の皆さんへ
 高校生等満18歳未満の年少者を夏休み等にアルバイト等として使用する場合にも、労働基準法等の法律を守らなければなりません。特に、年少者を深夜（午後10時から翌日午前5時まで）に使用することは原則として禁止されています。
 事業主の皆さんはもとより、生徒や周囲の皆さんもこのことについて十分留意しましょう。

■問い合わせ／
 山口労働局労働基準部
 ☎083(995)0370

平成18年度就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験の実施について
 この試験は、病気などやむを得ない事由により、就学義務を猶予または免除された方等に対し、中学校卒業程度の学力があるかどうかを認定するために国が行うもので、合格者には高等学校の入学資格が与えられます。
 ■試験期日／11月6日(月)

催し

■試験場所／山口県教育庁（山口市湊町1番1号）
 ■試験科目／
 国語、社会、数学、理科、外国語（英語）
 ■願書の受付期間／
 8月25日(金)～9月12日(火)
 ■問い合わせ／
 受験資格、出願書類など詳しいことは、周防大島町教育委員会学校教育課（☎78・2204）にお問い合わせください。

大島商船高等専門学校公開講座
 ○ことばの世界2
 平家物語「富士川合戦」を読む
 10月14日(日)
 午後3時～4時30分
 対象 高校生～一般

○TOEIC 対策基礎講座
 11月8日(木)・15日(木)
 午後6時～8時
 対象 一般

○「大阪字」はどうでっか？
 吉本博才から留聲機録音中まで
 11月18日(日)

午後3時～4時30分
 対象 高校生～一般

○パソコン環境設定講座
 11月23日(木)
 午前9時～4時
 対象 一般

○ことばの世界3
 古代日本人と外国語
 12月9日(日)
 午後3時～4時30分
 対象 高校生～一般

・詳しい内容、申し込み方法については、大島商船高等専門学校庶務課（☎74・5457）へお問い合わせください。

第15回山口県史講演会
 ■内容／
 文書からみる毛利元就の時代・防長中世文書の世界・講師 山口県史編さん委員 泉立広島大学教授 秋山伸隆先生
 ■日時／9月16日(日)
 午後1時30分～3時30分
 ■場所／
 ば・る・るプラザ山口（JR山口線山口駅横）
 ■申し込み・問い合わせ／
 山口県環境生活部 県史編さん室
 ☎083(933)4810

事案概要

1 警察官を名乗って、電話をし、主人（息子）の氏名・勤務先を告げ、「ご主人（息子さん）がコンビニでわいせつ行為をして、逮捕されました。後で弁護士から電話があると思います。」と言って、電話を切断（電話番号を告げて、弁護士役へ連絡させる場合もある。）

2 弁護士を名乗る者が電話をし、「和解金（示談金）を払えば告訴を取り下げる。」と言って、現金の振り込みを要求



3 多額の現金を振り込ませ、詐欺

ポイント

- 不審な電話があった場合は、必ず本人に確認しましょう。
- 本人に確認ができない場合には、絶対に振り込まないようにしましょう。
- すぐに警察に相談しましょう。振り込む前に110番を！！

お お し ま 警 察 署 だ よ り

オレオレ詐欺の新たな手口
 わいせつ行為の示談金名目オレオレ詐欺続発中！
 ～7月5日以降、県内で約20件の届出～

広報7月号掲載分

大島商船高専の先生がワードをやさしく教えてくださいます。皆さん楽しく学んでみてください。

・文字入力からワード基礎コース

☆ 学習内容 ① Word2003とは ② Wordの基本操作 ③ 文書の基本操作 ④ 文字の入力と保存 ⑤ 文書の編集 ⑥ グラフィックスの利用 ⑦ 表の作成 ⑧ 文書の印刷

日 程 : 平成18年8月18(金)・19(土)・21(月)・23(水)・24(木)・27(日)
 時 間 : 午前10時～12時
 対 象 者 : パソコン使用経験のある 小学生、中学生、高校生、一般の方
 ※小学生低学年の児童は保護者同伴(講習代は1人分)でご参加ください。
 講 習 代 : 3,500円
 テキスト代 : 2,100円(消費税、送料込み)
 ※使用テキストは「Word2003 セミナーテキスト初級編」(日経BPソフトプレス)
 会 場 : 大島文化センター 研修室1・2
 定 員 : 15名
 主 催 : 周防大島町教育委員会大島教育支所

受講を希望される方は、住所、氏名(小中学生が受講される場合は保護者の名前も)、年齢、電話番号、受講を希望するコース名を大島教育支所 TEL74-5300(藤本)まで、電話でお申し込みをお願いいたします。

広報8月号掲載分

大島商船高専の先生がワード、エクセルをやさしく教えてくださいます。皆さん楽しく学んでみてください。

・エクセル応用コース

☆ 学習内容 ① ブックの利用 ② 関数 ③ データベース機能 ④ ピボットテーブル ⑤ グラフの応用 ⑥ 作業の自動化 ⑦ Excelの便利な機能

日 時 : 平成18年9月26(火)・27(水)・29(金)・10月2(月)・4(水)・5(木)
 時 間 : 午後7時～9時
 対 象 者 : Excelの基本操作ができる方。仕事でExcelを活用したい方。
 講 習 代 : 3,500円
 テキスト代 : 2,310円(消費税、送料込み)
 ※使用テキストは「Excel2003 セミナーテキスト応用編」(日経BPソフトプレス)
 会 場 : 大島文化センター 研修室1・2
 定 員 : 15名
 主 催 : 周防大島町教育委員会大島教育支所

受講を希望される方は、住所、氏名(小中学生が受講される場合は保護者の名前も)、年齢、電話番号、受講を希望するコース名を大島教育支所 TEL74-5300(藤本)まで、電話でお申し込みをお願いいたします。

すでに、使用テキストと同じものを持っている方は、その旨を合わせてご連絡ください。

出典：周防大島町IT講習会実施要領

お知らせ7月



試験

消防職員採用試験

■受験資格
 ・昭和58年4月2日から平成元年4月1日までに生まれた人で高等学校卒業程度以上の学力を有する人(平成19年3月卒業見込みを含む)
 ・採用後、柳井地区広域消防組合構成市・町内に居住できる人
 ・救急救命士として受験する人は、救急救命士免許を有する人

■第一次試験日・場所
 9月17日(日)
 柳井地区広域消防組合

消防本部
 ■受験申込期間
 7月21日(金)～8月15日(火)
 ■問い合わせ
 柳井地区広域消防組合
 消防本部総務課
 ☎0820(23) 7772

介護支援専門員実務研修受講試験

■試験日/10月22日(日)
 ■試験会場/山口市
 ■対象者
 保健・医療・福祉の分野で合計5年以上(一部10年以上)の実務経験を有する人
 ■受付期間
 7月24日(月)～8月17日(木)
 ■受験手数料/7000円
 ※実務研修は試験合格者に対して

消防設備士試験

■試験日/9月3日(日)
 ■受験地
 下関市、山口市、周南市
 ■試験の種類

し平成19年1月以降実施
 ■問い合わせ
 山口県健康福祉部
 長寿社会課介護保険班
 ☎083(933) 2774

ボイラー取扱技能講習

○普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習
 ■講習期日
 8月31日(木)～9月1日(金)
 ■会場/山口県社会福祉会館
 ■受講料/1万円
 (テキスト代別)

臨時職員募集

■定員/50名
 ■申込期限/8月24日(木)
 ○ボイラー(小規模ボイラー)取扱技能講習
 ■講習期日
 8月17日(木)～18日(金)
 ■会場/山口県社会福祉会館
 ■受講料/1万円
 (テキスト代別)

募集

臨時職員募集

■職種/保健師1名
 ■勤務期間および時間
 8月1日～平成19年3月31日
 日 8時30分～午後5時15分
 ■勤務場所
 西安下庄3920・21
 たちばなケアプラザ内
 健康増進課
 ■勤務条件
 周防大島町の規定による
 ■申込期限/7月24日(日)
 ■問い合わせ/健康増進課
 ☎77・5504

講習受講者募集

大島商船高専の先生がワードをやさしく教えてください。皆さん楽しく学んでみ

甲種 (特種、第1類から第5類)
 乙種 (第1類から第7類)
 ■受験願書受付期限
 7月21日(日)
 ■問い合わせ
 柳井地区広域消防本部
 予防課
 ☎0820(23) 7774

てください。
 ◎文字入力からワード基礎コース(講師・大島商船高等専門学校 比嘉教官)
 ■学習内容

- ① Word 2003とは
- ② Wordの基本操作
- ③ 文書の基本操作
- ④ 文字の入力と保存
- ⑤ 文書の編集
- ⑥ グラフィックスの利用
- ⑦ 表の作成
- ⑧ 文書の印刷

■日程

8月18日(金)・19日(土)・21日(月)・23日(水)・24日(木)・27日(日)
 ■時間/午前10時～正午
 ■対象者
 パソコン使用経験のある小学生、中学生、高校生、一般の方
 ※小学生低学年の児童は保護者同伴(講習代は1人分)で参加ください。
 ■講習代/3500円
 ■テキスト代/2100円
 ■会場/大島文化センター
 ■定員/15名
 ■申し込み締め切り
 7月31日(日)
 ■申し込み・問い合わせ
 大島教育支所
 ☎74・5300

広報すおう大島 平成 18年(2006年) 7月号

12

出典：周防大島町広報「広報すおう大島」7月号(2006年)

国際交流特別文化講座

アフリカ系アメリカ文学の魅力

主催：柳井市教育委員会

共催：独立行政法人国立高専機構 大島商船高専

日時：平成19年6月28日 18:30～20:00

会場：柳井市文化福祉会館 大ホール

今年6月、アフリカ系アメリカ文学界の中でも世界的権威として5本の指に入る研究者キース・バイアマン博士が来日します。本講座では、バイアマン博士をはじめ他2人の著名学者の講演を皆さまにお届けします。このような世界的有名学者の講演が聴けるチャンスは希少です！研究者が参加する学会ならともかく、一般の方々を対象にした講演会としては、大都市でもほとんど開催されないといっても過言ではありません。さあ、皆様、この機会に足を運ばれては如何でしょうか。講演の内容は、音楽や映像も取り入れ、一般の方々でも興味を持っていただけるようなわかりやすいものですので、気軽にご参加ください。尚、講演は英語で行われますので、アメリカ文学そのものに興味はなくても、英語のリスニングの訓練をしたいという方も大歓迎です。もちろん、すべての参加者の方に理解していただけますように、日本語による解説もあります。

講演者：キース・バイアマン（インディアナ州立大学教授）

ウィルフレッド・サミュエルズ（ユタ州立大学教授）

伯谷嘉信（ケント州立大学教授）

コメンテーター・解説・通訳：木内徹（日本大学教授）、石田依子（大島商船高専准教授）



キース・バイアマン

出典：柳井市公開講座パンフレット

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

（観点に係る状況）

平成18年度における公開講座の開講数は22講座、参加人数は総数257名となっている（資料B-1-②-1）。また、小中学校に出向いて行う出前授業は9授業を実施、多数の小中学生及び保護者の参加があった（資料B-1-②-2, -3）。平成18年度における公開講座の実施状況報告、実施後の改善及び次年度の実施に関する準備に関しては地域協力委員会会議で審議されている（資料B-1-②-4）。

公開講座の参加者には講座後に満足度に関するアンケートを実施している。その満足度は、全講座とも約80%以上の満足度であるとの回答を得ている（資料B-1-②-5, -6）。また、地元周防大島町教育委員会が主催するIT講習会のアンケートにおいても参加者の満足度についてはおおむね良好であるとの結果を得ている（資料B-1-②-7）。

（分析結果とその根拠）

本校で実施される公開講座については、アンケートの結果より満足な内容であることがわかる。出前授業は近隣の小中学校へ出向いて講義を行っており、これに対しても多数の参加者があることがわかる。これらのことから本校における公開講座及び出前授業は地域への教育サービスとして受け入れられ、活用されていることがわかる。

公開講座等の改善に対しては、地域協力委員会会議で審議され、参加人数の確保や講座料の変更等が審議されており、システムとして機能していることがわかる。

資料B-1-②-1

平成18年度公開講座

整理	講座名	日時	会場	対象	募集人数	担当	申込期間	講習料	備考
1	天体観測会 ―満月に近い月と木星が近くで見えます―	5/12(金) 19:00～21:00 天候不変中止	視聴覚教室及び校舎屋上	小中学生 (保護者や先生が必ず 引率のこと)	10	辻 啓介 (天文愛好会)	4/24(月) ～ 5/11(木)	無料	
2	《幕末講座》 彌土の偉人 青木周弼 ―歴史を多角的にみよう―	5/13(土) 13:30～15:00	視聴覚教室	市民一般 中高生	100	田口由香 森本文規氏	4/17(月) ～ 5/8(月)	無料	
3	ソーラーボートを作ろう!	7/15(土) 09:00～12:00 または 13:00～16:00 雨天中止	校内	小学生	30	三原伊文 廣谷 毅	6/12(月) ～ 7/7(金)	無料	
4	クルーザーで行く朝鮮通信使の航海 の足跡	7/16(日) 8:30～16:00	すばる視聴覚会	市民一般	10	古藤泰英	6/28(木) ～ 7/7(金)	無料(ただし、保護料・ 昼食代・見学料が必要 です)	
5	針穴写真入門 ―ピンホールカメラの製作から撮影・現像まで―	7/22(土) 09:00～17:00	視聴覚教室・校内開田・講堂	市民一般 小中学生	10	新谷浩一	6/19(月) ～ 7/14(金)	無料	
6	ことばの世界 1 いろは歌と五十音図	7/22(土) 15:00～16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	中塚信幸	6/19(月) ～ 7/14(金)	無料	
7	映画で学ぶアメリカ文学 ―「カサブランカ」と「スカーレット」―	7/28(金) 18:00～20:00	本館会議室	いずれかの 映画を見た ことのある方	30	石田珠子	6/26(月) ～ 7/21(金)	無料	
8	パソコンで 自分の家を設計してみよう ―住宅の周知や外観も―	7/29(土) 13:00～17:00	情報教育センター 第1演習室	市民一般 小中学生	15	北島裕教 宮元 章	7/1(土) ～ 7/21(金)	無料	
9	親子サイバイバルキャンプ	7/29(土)30(日) 09:30～15:30	練習船大島丸 周防大島開田	親子20組 以内	40	大島丸(安現 船長ほか) 町教委	7/1(土) ～ 7/20(木)	3,000	周防大島町教育委員会共催(申 し込みは下記周防大島町B&G海 洋センターまで)
10	デジタル写真を加工しよう III ―画像を使った 4コマストーリーの作成―	8/5(土) 09:00～16:00	情報教育センター 第1演習室	市民一般 小中学生	20	浦上英依子	7/3(月) ～ 7/28(金)	無料	
11	ヨット教室:ヨットに乗ろう!!	8/5(土) 09:00～16:00	ヨットヤード 練習船大島丸	小学5年生 以上 市民一般	10	安尾英昭	7/3(月) ～ 7/30(木)	1000円(保険料・昼食 代等して)	
12	少年・少女サッカー教室	8/5(土) 09:30～15:00	本校グラウンド (雨天の場合は体育館)	小中学生 (傷害保険 に加入して いること)	40	香田三広 野サッカー 協会指導者	7/3(月) ～ 7/28(金)	無料	
13	数学者 ～ 真理の探求者達 ～	8/5(土) 13:30～15:30	視聴覚教室	市民一般	50	中井洋史	7/3(月) ～ 7/21(金)	無料	
14	もの作り体験講座 ―身近な材料で作る環境にやさしい エンジン・ジャンピングロー製作!―	8/6(日) 9:00～15:30	電子実験室 (電子棟3F)	小中学生	12	川原芳夫 吉田卓輝	7/3(月) ～ 7/28(金)	無料	
15	もの作り体験講座 ―電池とモーターで動く―	8/18(金)～19(土) 09:30～15:30	機械工作実験室 (電子棟1F)	小学校高学 生・中学生	10	岡野内 信	7/3(月) ～ 8/11(金)	3,200	
16	初心者向け 設計製図とCAD	8/21(月) 23(木)25(金) 19:00～21:00	情報教育センタ 第2演習室	中学生以上 市民一般	12	川原芳夫 清水聖治 岡野内 信 藤井隆之	7/1(土) ～ 7/31(月)	1,000	
17	《幕末講座》 幕長戦争(四境の役)大島口を巡る ―海と陸から見る戦場地―	9/2(土) 09:00～16:00	練習船大島丸 周防大島町各地	市民一般 小中学生	30	田口由香 大島丸(安現 船長ほか) 町教委 川口智 宏	8/1(火) ～ 8/21(月)	1,000	申し込みは、下記周防大島文化 交流センターまで
18	ことばの世界 2 平家物語「富士川合戦」を読む	10/14(土) 15:00～16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	吉田郁雄	9/4(月) ～ 10/6(金)	無料	
19	パソコン環境設定講座	11/23(木) 9:00～16:00	プログラミング演習室	市民一般	10	石原良晃	11/1(木) ～ 11/10(金)	無料	
20	《おもしろ雑学講座》第3弾 「大数学」はどうでっか? ! ～昔本屋から曾根崎心中まで～	11/18(土) 15:00～16:30	本館会議室	市民一般 大学生 高校生	30	石田快子	10/15(月) ～ 11/10(金)	無料	
21	TOEIC 対策基礎講座	11/8(木)、15(木) 18:00～20:00	本館会議室 情報教育センター	市民一般	15	吉富文男	10/2(月) ～ 10/26(木)	無料	
22	ことばの世界 3 古代日本人と外国語	12/9(土) 15:00～16:30	本館会議室	市民一般 高校生	30	中塚信幸	11/6(月) ～ 12/1(金)	無料	

※申し込み先 大島商船高等専門学校
 直轄課まで
 tel0820-74-5457
 fax0820-74-5552

ただし、親子サイバイバルキャンプ
 については、
 周防大島町B&G海洋センターま
 で
 tel0820-74-5300

《幕末講座》
 幕長戦争(四境の役)大
 島口を巡るについては
 周防大島文化交流センター
 まで
 tel0820-78-2514
 9:30から18:00まで(水曜
 日休館)

出典：地域協力委員会会議資料，平成19年2月1日開催

資料B-1-②-2

平成18年度

出前授業

大島商船高等専門学校

No.	テーマ	講師	内容	対象	備考
1	音声で3Dアニメーションを動かそう	岩崎寛希 (コンピュータ応用の第一人者)	パソコンで3Dアニメーションを作成してみよう。	中学生	準備いただくもの: スクリーン
2	ネットワーク社会のマナーとモラルを考える	浦上美佐子 (コンピュータの達人)	上手にインターネットを利用できる人になるために、ネットワーク社会のマナーとモラルについて考えていきます。	小学生 (高学年) 中学生	準備いただくもの: プロジェクタ (なければ持参します。)
3	ロボット技術とものづくりの心	岡野内 悟 (ロボコンの先生)	ものづくりとロボットについての話 レゴバルなどの体験学習 ロボットなどの製作指導やロボット実演	小学生 中学生	実施方法や内容詳細は、相談の上決めます。
4	おもしろロボット	清水聖治 (電子工作ならお任せ)	「ブランコロボット」は「きらら博」に出展したすぐれもの、「大車輪ロボット」は最新作でさらに楽しめるはず。みなさんはブランコをどうやってこぎますか?この授業では、大島商船で製作した小さなロボットにうまくブランコをこがせるためにいろいろ考えます。	小学生 中学生	小さなロボット2台を連れて行きます。 準備いただくもの: スクリーンと AC100V 電源、よく回る回転椅子(背もたれ・肘掛つきが安全)いです。
5	ものの流れ お金の流れ -激安ショップの謎-	新谷浩一 (物流の研究者)	激安ショップは、なぜものを安く売ることができるのか、なぜものを安く売っているのか、ということについて解説します。	中学生	準備いただくもの: PCプロジェクタ、スクリーン (プロジェクタはなければ持参します。)
6	流れのマジック	角田哲也 (流れの専門家)	飛行機が空を飛ぶのも、野茂のフォークボールも理屈は同じ。 風洞実験、流れの可視化実験でよく理解できます。	中学生	準備いただくもの: スクリーン
7	船は どうして浮いているの? どうして走っているの?	辻 啓介 (海の交通はお任せ)	丸木舟から始まった船の歴史。「鉄の船がどうして浮くのか」など、浮力と安定の問題を中心に、船の材料・動力・航海術の歴史について、その社会的背景とともにお話します。	小学生 (高学年) 中学生	準備いただくもの: プロジェクタ、スクリーン 水槽があれば、浮力と安定の実験をお見せします。
8	雲から探る天気予報	名誉教授 福谷恒男 (気象予報士)	雲の発生のしくみを簡単な実験で楽しく体験した後、天気予報に利用できるさまざまな雲の特徴を美しい写真とともに説明して気象に対する関心を高めます。	中学生	「海洋気象のABC」(成山堂)という本の著者です。 準備いただくもの: スクリーン
9	サバイバル・レッスン	藤井敬治 (練習船一等航海士)	続発する地震や重大気象災害に備えての日頃からの準備・心構えや最初の3日間をどう生き延びるかについて考えます。防災グッズでの体験、救難食料の試食、実戦に役立つロープワークを行います。今すぐ自分にできることは何でしょうか。キーワードは「3と5」です。	小学生 中学生	準備いただくもの: 試食用の電気ポット(2ℓ以上)と水 防災テキスト・緊急一覧表をプレゼントします。 練習船「大島丸」に乗船しての授業も可能です。
10	豪華客船「タイタニック号」の沈没から考える		世界三大海難から現代に引き継がれている身近な話(SOS信号)、映画のウソをきっかけに安全意識・危険予知を考えます。		タイタニック号海難記事(当時の新聞・英語)のコピーをプレゼント。
11	海と環境について	古賀英司 (練習船機関長) 藤井敬治 (練習船一等航海士)	美しい海を守ることの重要性和地球環境問題、そして地球に優しく日本にしているなものを運ぶ船について考えます。環境を守るために自分たちにできることを身近に見つけ、それを行動に移すことから始めましょう。	小学生 中学生	テキストを配布します。 準備いただくもの: テレビ(VTR(20分)を放映します。) 練習船「大島丸」に乗船しての授業も可能です。

★ 日時等につきましては、個々にご相談させていただきますので、申込書にはご希望の年月日等を記入ください。

★ 連絡先:大島商船高等専門学校 庶務課 専門職員 0820-74-5457

出典:地域協力委員会会議資料,平成19年2月1日開催

資料B-1-②-3

平成18年度 出前授業実績

総件数 9件(昨年度 10件)

年月日	曜日	行き先	内容	講師	時間	対象
2006/5/17	水	屋代小学校	ロボット技術とものづくりの心	岡野内 悟	14:00～15:10	小学校5.6年 3
2006/7/13	木	本郷中学校	ネットワーク社会のマナーとモラルを考える	浦上美佐子	14:30～15:20	中学1.2.3年生 3
2006/8/2	水	由宇小学校	船はどのように浮いているの？走るの？	辻 啓介	13:00～16:00	小学生120名程
2006/8/10	木	岩国中央公民館	サバイバル・レッスン	藤井敬治	9:30～11:30	小学校4-6年 2
2006/9/12	火	情島小学校	ロボット技術とものづくりの心	岡野内 悟	12:30～14:00	小学校2～6年 1
2006/9/26	火	光市周防小学校	サバイバル・レッスン	藤井敬治	15:05～16:05	小学校4-6年 1
2006/10/4	水	城山小学校	サバイバル・レッスン	藤井敬治	10:15～11:15	全児童・教職員8
2006/10/6	金	七尾中学校(廿日市)	サバイバル・レッスン	藤井敬治	13:35～17:00	中学3年生 70
2006/11/17	金	三蒲小学校	サバイバル・レッスン	藤井敬治	14:30～15:40	PTA・教職員員3

出典：地域協力委員会会議資料，平成19年2月1日開催

平成 18 年度 地域協力委員会 議事要旨

1. 開催日時 平成 19 年 2 月 1 日 (木) 15 時 55 分～16 時 45 分
2. 開催場所 地域協力センター
3. 出席者 平畑幸作 (教務主事) 辻 啓介 (商船学科主任) 松井利幸 (情報工学科主任)
松田充夫 (地域協力センター長) 田村和彦 (庶務課長) 松浦政裕 (会計課長)
山重宏幸 (庶務課)
欠席者 奥野澄生 (電子機械工学科主任) 吉富知行 (一般科目主任)
出川隆富 (学生課長)
4. 議事要旨
 - (1) 地域協力センターの活動計画について (松田地域協力センター長)
 - ・地域協力センターの活動状況、および計画について報告があった。
(企業訪問キャラバン、産学技術交流会、地域協力活動の情報収集、研究会のあり方・専攻科活用、特許講習・インターンシップ等)
 - ・本校が、2007 中国地区地域協力センター長会議の当番校となっているので、開催に向けて早めに準備をしたい。(9 月ごろ開催予定)
 - ・研究者マップについて、冊子版を作成中であり、今年度中に完成予定。HP への掲載は、時間・予算等の都合で当面は難しいが、今後検討していきたい。
 - (2) 公開講座について (委員長)
 - ①平成 18 年度公開講座実施状況について
 - ・実施状況を報告した。(受講者数・満足度アンケート結果等)
 - ・受講者数の少ない講座については、内容を工夫して、受講者を増やす努力が必要。
 - ②平成 19 年度公開講座募集について
 - ・平成 19 年度公開講座料金及び名称について、高専本部監事監査での指摘事項 (一般人向けの公開講座は、受講料を減額して開講することは出来ない。減額で開講するならば「公開講座」の名称を使用せず、「教養講座」等の名称で開催してもらいたい) を説明。
 - ・平成 19 年度公開講座に関しては、「公開講座」「教養講座」の 2 本立てで開講する。企画募集の段階で、担当教員に「公開講座」「教養講座」の違いを説明し、どちらかを選ぶ形

出典：地域協力委員会会議議事録，平成 19 年 2 月 1 日開催

資料B-1-②-4 (続き)

にする。募集方法は、昨年度同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出（締切りは3月2日（金））とする。

(3) 出前授業について（委員長）

①平成18年度出前授業実施状況について

- ・実施状況を報告した。（件数、出前講師、出前先等）

②平成19年度出前授業の募集について

- ・昨年同様、メールにて全教員へ募集をかけ、学科長経由で庶務課に企画書を提出（締切りは3月2日（金））とする。

※1名常教授へ依頼する。(別紙)
毛
〔近隣に在住の方限定〕

出典：地域協力委員会会議議事録，平成19年2月1日開催

資料B-1-②-5

ことばの世界3 18.12.9

★ 公開講座についてのアンケート ★

各項目の右の欄の カタカナ (ア・イ・・・)、数字等には○をつけて、記入欄にはそのまま記入して回答をお願いいたします。

1	性別を選んでお答えください。	ア. 男 イ. 女
2	年代を選んでお答えください。	ア. 9才以下 イ. 10代 ウ. 20代 エ. 30代 オ. 40代 カ. 50代 キ. 60代 ク. 70代 ケ. 80才以上
3	職業を選んでお答えください。	ア. 小学生 イ. 中学生 ウ. 高校生 エ. 高専生 オ. 大学生 カ. 会社員 キ. 公務員 ク. 自営業 ケ. その他(年金生活)
4	お住まいの地域を選んでお答えください。	ア. 周防大島町 イ. 柳井市 ウ. 岩国市 エ. その他()
5	この講座を何で知りましたか。	ア. ポスター イ. 新聞 ウ. ホームページ エ. 広報誌 オ. その他()
6	この講座に満足していただけましたか。 (5段階の点数に○をお願いします)	満足 5 4 3 2 1 不満足
7	内容は理解できましたか。 (5段階の点数に○をお願いします)	理解できた 5 4 3 2 1 よく分からなかった
8	時間はいかがでしたか。	ア. 長かった イ. やや長かった ウ. ちょうどよい エ. やや短かった オ. 短かった どのくらいが適当と思われますか。()時間
9	今後どのようなテーマを講座で取り上げて欲しいですか。	経済評論 政治評講 演芸評論
10	その他、ご意見やご要望をお書きください。	

ご協力ありがとうございました。

出典：公開講座のアンケート

資料B-1-②-6

平成18年度 公開講座実施状況

総受講者数 257名(昨年度274名)

講座の名称	開設時期					総開設 時間数	受講対象者	受講料	受講定員	受講者数	有効 回答者数 (A)	左の内 満足回答 者数(B)	満足度率 (B/A)		
	年	月	日	～	年									月	日
天体観測会	18	5	12	～	18	5	12	2	小中学生	無料	10	4	4	3	75.0%
幕末講座 青木周弥	18	5	13	～	18	5	13	2	一般	無料	100	22	22	17	77.3%
ソーラーボートを作ろう	18	7	15	～	18	7	15	6	小学生	無料	30	20	20	16	80.0%
クルーザーで行く朝鮮通信使の航海の足跡	18	7	16	～	18	7	16	8	一般	無料	10	10	10	9	90.0%
ことばの世界1-いろは歌と五十音図-	18	7	22	～	18	7	22	3	中高生一般	無料	30	11	11	9	81.8%
針穴写真入門	18	7	22	～	18	7	22	7	中高生一般	無料	10	4	4	4	100.0%
映画で学ぶアメリカ文学	18	7	28	～	18	7	28	2	一般	無料	30	6	4	3	75.0%
パソコンで自分の家を設計してみよう	18	7	29	～	18	7	29	5	一般	無料	15	13	11	10	90.9%
親子サバイバルキャンプ	18	7	29	～	18	7	30	16	小中学生	¥3,000	40	19	18	15	83.3%
少年・少女サッカー教室	18	8	5	～	18	8	5	6	小中学生	無料	40	39	38	32	84.2%
数学者	18	8	5	～	18	8	5	2	一般	無料	50	2	2	2	100.0%
デジカメ写真を加工しよう3	18	8	5	～	18	8	5	6	一般	無料	20	6	5	5	100.0%
ヨット教室	18	8	5	～	18	8	5	6	小中学生	¥1,000	10	12	11	10	90.9%
エンジン・ジャンピングローラー	18	8	6	～	18	8	6	6	小中学生	無料	12	10	9	8	88.9%
電池とモーターで動く	18	8	18	～	18	8	18	8	小中学生	¥3,200	10	4	4	4	100.0%
初心者向けCAD講座	18	8	21	～	18	8	25	5	一般	¥1,000	12	5	4	4	100.0%
幕末講座 四境の役をめぐる	18	9	2	～	18	9	2	7	一般	¥1,000	30	30	30	26	86.7%
ことばの世界2-平家物語・富士川合戦を読む-	18	10	14	～	18	10	14	2	一般	無料	30	3	3	3	100.0%
TOEIC対策基礎講座	18	11	8	～	18	11	15	4	一般	無料	15	6	6	6	100.0%
「大阪学」はどうでっか?	18	11	18	～	18	11	18	2	一般	無料	30	12	11	8	72.7%
パソコン環境設定講座	18	11	23	～	18	11	23	6	一般	無料	10	7	6	6	100.0%
ことばの世界3	18	12	9	～	18	12	9	1.5	一般	無料	30	12	12	7	58.3%

出典：地域協力委員会会議資料，平成19年2月1日開催

資料B-1-②-7

平成 18 年度 パソコン活用講座 (Word コース)

パソコン活用講座を受講された皆様へ

この度は、パソコン活用講座にご参加いただきありがとうございました。

大島教育支所では、受講者の皆様の御意見を伺いながら、今後開催を行う事業の参考にしたいと考えております。誠にお手数ですが以下の質問にお答えいただけますようご協力をおねがいいたします。

該当箇所を○で囲ってください。

- Q1 あなたの年齢は？
 ・20歳未満 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代以上
- Q2 この講座の程度は？
 ・簡単すぎる ・やや簡単 ・適当 ・やや難しい ・難しすぎる
- Q3 この講座の時間は？
 ・長すぎる ・やや長い ・適当 ・やや短い ・短すぎる
- Q4 この講座の進む速さは？
 ・速すぎる ・やや速い ・適当 ・やや遅い ・遅すぎる
- Q5 この講座での理解度は？
 ・ほぼ完璧 ・だいたい理解できた ・ふつう ・あまり理解出来なかった ・まったく分からなかった
- Q6 パソコンを個人でお持ちですか？
 ・持っている ① ノートパソコン ② デスクトップパソコン
 ・持っていない
- Q7 今後パソコン講座の開催があれば受講したいと思いませんか？
 ・思つ ・思わない
- Q8 どのような内容の講座に参加したいですか？(複数回答可)
 ・Word初級 ・Word応用
 ・Excel初級 ・Excel応用
 ・インターネット初心者講座(ネットワークの基本用語・電子メール・ウイルス対策等)
 ・画像処理(基本用語・デジカメ撮影)
 ・賞状(年賀状ソフト(安価なもの)を使用)
 ・Windows初心者講座(基礎知識等)※説明+基本操作
 ・その他()
- Q9 今後もパソコンの講習を受ける場合、希望する曜日はいつですか？
 ・平日 ・土曜日 ・日曜日 ・いつでも
- Q10 希望する時間帯いつですか？
 ・午前 ・午後(～17:00まで) ・夜間(18:00～21:00頃) ・いつでも
- Q11 その他ご意見があればお書きください。(今回の講習会の感想、今後の希望等)

楽しく学習出来ました
 ありがとうございました

出典：周防大島町 IT講習会のアンケート

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・平成18年度においては22の公開講座および9の出前授業を開催し、いずれの講座および授業においても多数の参加者があったこと。
- ・公開講座及び出前授業の内容はバラエティーに富んでおり、また本校の豊富な経験を持つ教授陣、設備を存分に利用している。
- ・公開講座参加者のアンケートにより、内容的においても十分参加者のニーズを満たしていることがわかる。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校は地域と長い歴史を持っており、船員養成や工業技術者育成のみならず長い歴史を共有する地域への貢献が非常に重要である。よって地域貢献を目的とした小中学生、一般市民を対象とした公開講座や小中学生を対象とした出前授業の実施を行っている。その中で公開講座は22講座、出前授業は9授業を開催している。参加者のアンケートにより内容的にも満足していることが伺える。

本校の公開講座及び出前授業は、地域協力委員会で講座の内容、実施時期及び参加費用等が審議される。また参加者のアンケートの集計等も委員会が行い、次回への改善の参考資料としている。

また、地元周防大島町教育委員会が主催するIT講習会への教員の講師派遣及びアシスタントとしての専攻科生の派遣、さらに近隣の柳井市が行う公開講座への教員の講師派遣など、近隣市町村との連携も増えつつある。

以上のことにより、本校では学生以外の教育サービス、特に地域連携を目的とした多数の公開講座および出前授業を開講していることがわかる。

(4) 目的の達成状況の判断

達成している。